

# ■第1章 施設白書

## 1 沿革・地勢・地域ごとの特性

### 1-1 沿革

#### 1-1-1 本組合の沿革

消防の広域化については、消防力の充実強化を図るため、平成18年に消防組織法に位置づけられるとともに、これに基づく「市町村の消防の広域化に関する基本指針」（平成18年消防庁告示第33号）が策定され、令和6年4月1日を推進期限として、各般の取組を進めることとされました。

埼玉県では、消防に係る住民サービスの向上や消防基盤の強化を目的として、埼玉県消防広域化推進計画に基づき、消防の広域化を進めていました。こうした状況の中、本組合の構成市にあっては、変化する都市構造に対応するため、消防体制の充実強化に努めてきましたが、高齢化率の顕著化や地球環境の変化による類例を見ない大規模な気象災害の多発等、消防体制の充実強化の進捗を上回るスピードで災害発生リスクが高まっています。また、安全・安心なまちづくりを推進していくためには、それぞれの地域における消防体制の充実強化の取組を継続する必要は勿論のこと、近年の災害発生状況を勘案した場合、自治体の枠を超えた広域的な連携についても検討する必要があるとの考えから、平成25年4月に「草加市及び八潮市消防広域化協議会」を設立し、消防広域化の協議を開始し、様々な議論を重ねてきました。

そして、平成26年2月5日草加市・八潮市が消防広域化重点地域に指定されたことを受け、消防組織の規模を大きくすることによる様々なスケールメリットを生かした消防体制の充実強化を図ることを目的に、平成27年10月1日に草加八潮消防組合が設立し、平成28年4月1日から消防事務の共同処理を開始しました。

図表 2 構成市の位置



図表 3 消防組合の年表

年月	内容
平成 18 年 6 月	消防組織法に「消防広域化」が規定
平成 20 年 3 月	埼玉県消防広域化推進計画が策定
平成 25 年 4 月 1 日	草加市及び八潮市消防広域化協議会の設置 (平成 25 年 4 月から全 89 回の会議を開催)
平成 26 年 2 月 5 日	草加市・八潮市が消防広域化重点地域に指定 (県内初)
平成 27 年 1 月 30 日	草加市・八潮市広域消防運営計画の策定 広域化の議案を両市議会に提出することの合意
平成 27 年 3 月	両市議会の広域化の議決
平成 27 年 3 月 27 日	草加市・八潮市消防広域化調印式
平成 27 年 4 月 23 日	埼玉県知事から「草加八潮消防組合設立許可書」が交付
平成 27 年 10 月 1 日	草加八潮消防組合設立
平成 28 年 2 月 1 日	平成 28 年第 1 回草加八潮消防組合議会定例会 (4 月 1 日の消防業務開始に向けた議案を提出)
平成 28 年 4 月 1 日	草加八潮消防局・草加消防署・八潮消防署発足

---

## 1-1-2 構成市の沿革概要

### ■まちの成り立ち

草加市：江戸時代より日光街道の第2の宿場町として栄え、街道を中心にまちが発展。

八潮市：かつては江戸の穀倉地帯であり、米や野菜の生産を中心とする純農村として栄える。

昭和30年（草加市）草加町、谷塚町、新田村の合併により草加町が誕生。

昭和31年（八潮市）八條村・潮止村・八幡村の合併により八潮村が誕生。

昭和33年（草加市）県内で21番目に市制を施行。

昭和37年（草加市）東武伊勢崎線と営団地下鉄（現東京メトロ）日比谷線の相互乗り入れ開始。

昭和47年（八潮市）県内で34番目に市制を施行。

昭和40年代後半～（草加市・八潮市）人口が急激に増加

平成16年（草加市）全国で40番目の特例市に移行。

平成17年（八潮市）つくばエクスプレス八潮駅の開業。駅周辺の大規模な基盤整備が進む。

草加市：平成31年1月1日現在の人口は248,488人（県内6位）、世帯数は116,123世帯（県内6位）となっています。

八潮市：平成31年1月1日現在の人口は90,861人（県内34位）、世帯数は42,479世帯（県内33位）となっています。

## 1-2 地勢

本組合の管轄区域は、都心から約 15km 圏、埼玉県 of 東南部に位置し、中川、綾瀬川、圀川、伝右川、毛長川といった一級河川や葛西用水など大小様々な川が流れる平坦な地形となっています。面積は 45.48 km<sup>2</sup>（草加市：27.46 km<sup>2</sup>、八潮市：18.02 km<sup>2</sup>）で市街化区域<sup>※1</sup>は 38.10 km<sup>2</sup>（草加市：25.02 km<sup>2</sup>、八潮市：13.08 km<sup>2</sup>）と管轄区域の約 80%を占めています。また、交通アクセスとして、鉄道網では、草加市内には都心や県東部の北部方面に連絡する東武伊勢崎線の 4 駅があり、路線は市の中心部を南北に縦断しています。八潮市内には、都心や茨城県方面に連絡するつくばエクスプレスの八潮駅があり、路線は市の南部を東西に横断しています。道路網では、両市の北部を東京外かく環状道路・国道 298 号が東西に横断し、草加市内には草加インターチェンジがあり、東京外かく環状道路を起点に東埼玉道路が両市の市境を縦断しています。また、草加市には、国道 4 号草加バイパスが草加市西部を縦断しており、八潮市には、東西方向に首都高速道路三郷線、南北方向に八潮越谷線（産業道路）が通り、これらの交差する地点に八潮南ランプが整備されています。本組合の管轄区域は、これら広域幹線道路を骨格とした道路網が形成されています。

また、草加市、八潮市においては、市街地における火災の危険を防除するため、建物を構造の面から規制する防火地域<sup>※2</sup>または準防火地域<sup>※3</sup>が指定されています。

図表 4 組合管内における防火地域・準防火地域の面積及び全体に占める割合

	草加市		八潮市		合計	
面積	27.46		18.02		45.48	
防火地域面積	0.326	1.2%	0.139	0.8%	0.465	1.0%
準防火地域面積	0.236	0.9%	0.284	1.6%	0.520	1.1%

出典：国土交通省 平成 29 年都市計画現況調査  
平成 29 年 3 月 31 日時点

※1 市街化区域：すでに市街地を形成している区域及びおおむね 10 年以内に優先的かつ計画的に市街化を図るべき区域

※2 防火地域：「市街地における火災の危険を防除するため定める地域」（都市計画法第九条 21 項）として、主に駅前の市街地や住宅密集市街地、幹線道路沿線などが指定される。建築基準法により 3 階以上の建物は耐火建築物であることが要求されるなど、火災を防止するための特に厳しい建築制限が課せられている。

※3 準防火地域：「市街地における火災の危険を防除するため定める地域」（都市計画法第九条 21 項）として、主に密集市街地、幹線道路沿線などが指定される。建築基準法により 4 階以上の建物は耐火建築物であることが要求されるなど、防火地域に次ぐ耐火性能が求められている。

---

### 1-3 地域ごとの特性

本組合が管理する常備消防施設<sup>※1</sup>は、草加市内に、1署3分署1ステーション（所）、八潮市内に1署の計6署所を配置しています。草加消防署と八潮消防署には、本組合の消防局機能<sup>※2</sup>として消防局が配置されています。また、草加市立病院内に救急ステーションを設置しており、医療機関と消防機関とが連携した救急業務を展開しています。

警防活動を行う警防出動区域と救急活動を行う救急出動区域が、一部の地域を除き町丁目ごとに定められており、本組合の広域化後、草加市の稲荷の一部地域は、八潮消防署の警防・救急出動区域に、また、八潮市の八條及び南後谷の一部地域は、草加消防署、青柳分署の警防・救急出動区域となっています。

非常備消防施設<sup>※3</sup>は、草加市内に、5分団計14部、八潮市内に3分団計19部あります。

---

※1 常備消防施設：消防局・消防署、分署、ステーションといった常勤の消防職員や消防車両が待機する施設。

※2 消防局機能：主な機能として①指令、②災害対策本部・警防本部、③総務、④警防、⑤予防、⑥議会・監査等の業務を担っている。

※3 非常備消防施設：消防団機械器具置場等、非常勤の消防団員の活動拠点や消防団車両が待機する施設。

---

図表 5 出動区域図



注：本図は常備消防の出動区域を示すものであり、消防団の出動区域を示すものではありません。

---

### 1-3-1 草加消防署管内の地域特性

草加消防署管内は、本組合の管轄区域の中心部に位置し、南北方向に足立越谷線、東西方向に草加流山線及びさいたま草加線が通り、東武伊勢崎線の獨協大学前<草加松原>駅が管内の北部、東武伊勢崎線の草加駅が管内の西端にあります。区域の中心を一級河川である綾瀬川が流れています。救急出動区域において、管内の一部は救急ステーション区域です。

草加消防署は、足立越谷線に面して立地しています。

### 1-3-2 草加消防署西分署管内の地域特性

草加消防署西分署の管内は、本組合の管轄区域の西部に位置し、南北方向に国道4号草加バイパス、東西方向にさいたま草加線が通り、草加駅が管内の東端にあります。救急出動区域において、管内の一部は救急ステーション区域です。

草加消防署西分署は、国道4号草加バイパスに面して立地しています。

### 1-3-3 草加消防署青柳分署管内の地域特性

草加消防署青柳分署の管内は、本組合の管轄区域の北東部に位置し、南北方向に東埼玉道路、東西方向に東京外かく環状道路・国道298号が通っています。管内の東を中川、西を綾瀬川といった一級河川が流れています。

また、管内の南部には八潮消防署の区域にかけて草加八潮工業団地があり、工業地が集積しています。草加消防署青柳分署は、国道298号と東埼玉道路の交差部の北西に立地しています。

### 1-3-4 草加消防署北分署管内の地域特性

草加消防署北分署の管内は、本組合の管轄区域の北西部に位置し、南北方向に国道4号草加バイパス、東西方向に東京外かく環状道路・国道298号が通り、草加インターチェンジが管内の中央に、東武伊勢崎線の新田駅が管内の東部にあります。区域の西を一級河川である伝右川が流れています。

草加消防署北分署は、国道4号草加バイパスに面して立地しています。

### 1-3-5 草加消防署谷塚ステーション管内の地域特性

草加消防署谷塚ステーションの管内は、本組合の管轄区域の南西部に位置し、南北方向に国道4号草加バイパスと足立越谷線が通り、東武伊勢崎線の谷塚駅が管内の中央にあります。

草加消防署谷塚ステーションは、国道4号草加バイパスと足立越谷線の間立地に立地しています。

### 1-3-6 八潮消防署管内の地域特性

八潮消防署の管内は、本組合の管轄区域の東部に位置し、南北方向に伊草大原線、東西方向に草加三郷線、首都高速道路三郷線が通り、八潮南ランプとつくばエクスプレスの八潮駅が管内の南部にあります。管内の東を中川、西を綾瀬川、南を圀川といった一級河川が流れています。また、管内の北部には、青柳分署の管内にかけて草加八潮工業団地があり、工業地が集積しています。

八潮消防署は、柳之宮木曾根線に面して立地しています。

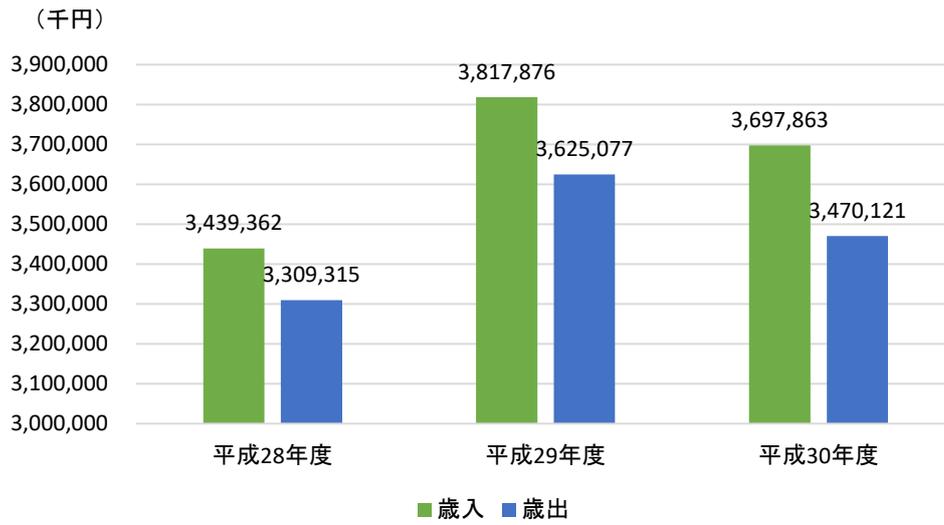
## 2 財政状況

### 2-1 財政規模の推移

#### 2-1-1 過去3年間の歳入歳出総額（決算額）の推移

本組合の平成30年度の歳入決算額は36億9,786万円、歳出決算額は34億7,012万円となっています。

図表6 本組合業務開始後3年間歳入歳出（決算額）



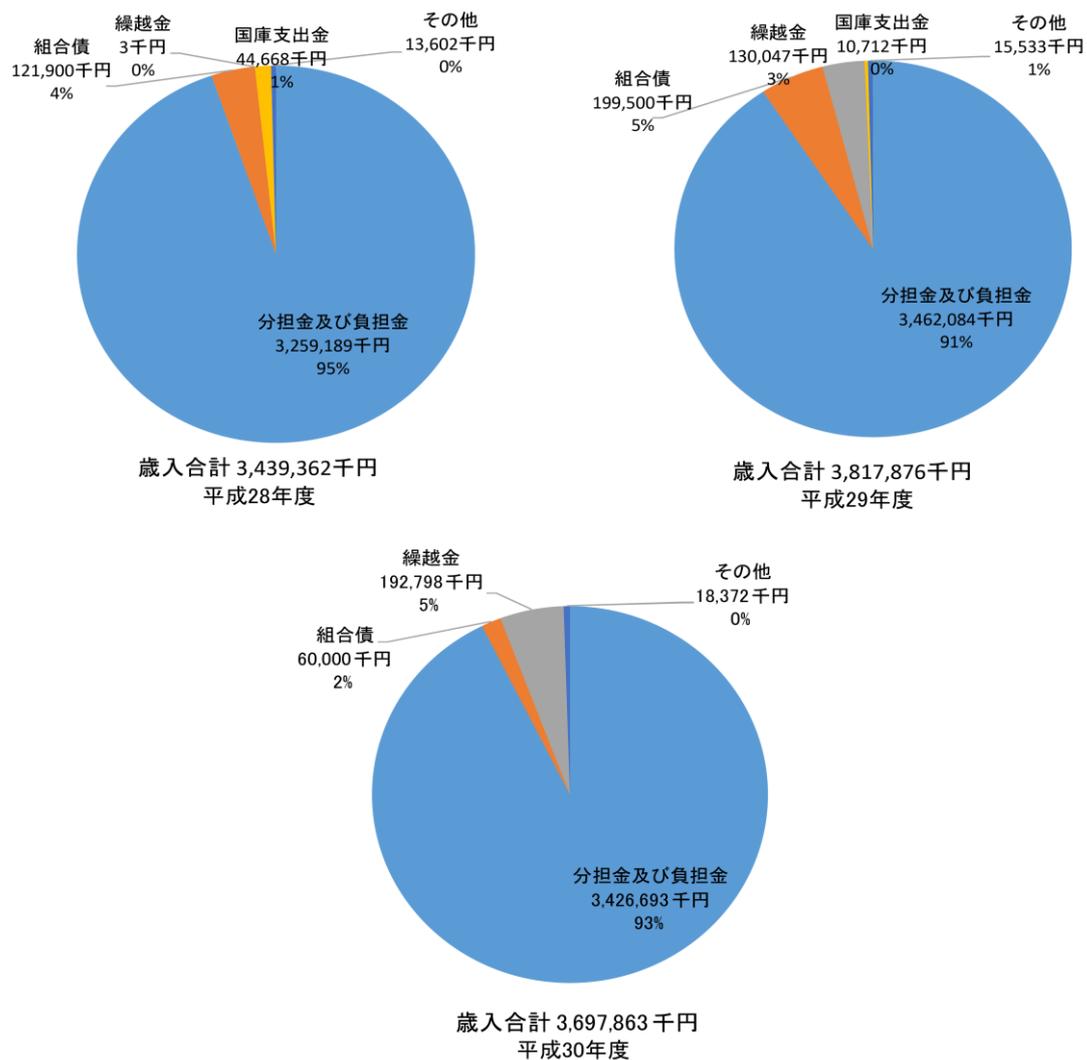
出典：平成28年度、平成29年度、平成30年度草加八潮消防組合一般会計歳入歳出決算書

## 2-1-2 歳入

本組合の平成 30 年度の歳入決算額は 36 億 9,786 万円となっています。

平成 30 年度の歳入決算額の内訳では、「分担金及び負担金」が全体の 9 割（93%：34 億 2,669 万円）を占めており、組合の歳入の大部分は構成市からの負担金によって成り立っています。

図表 7 歳入内訳



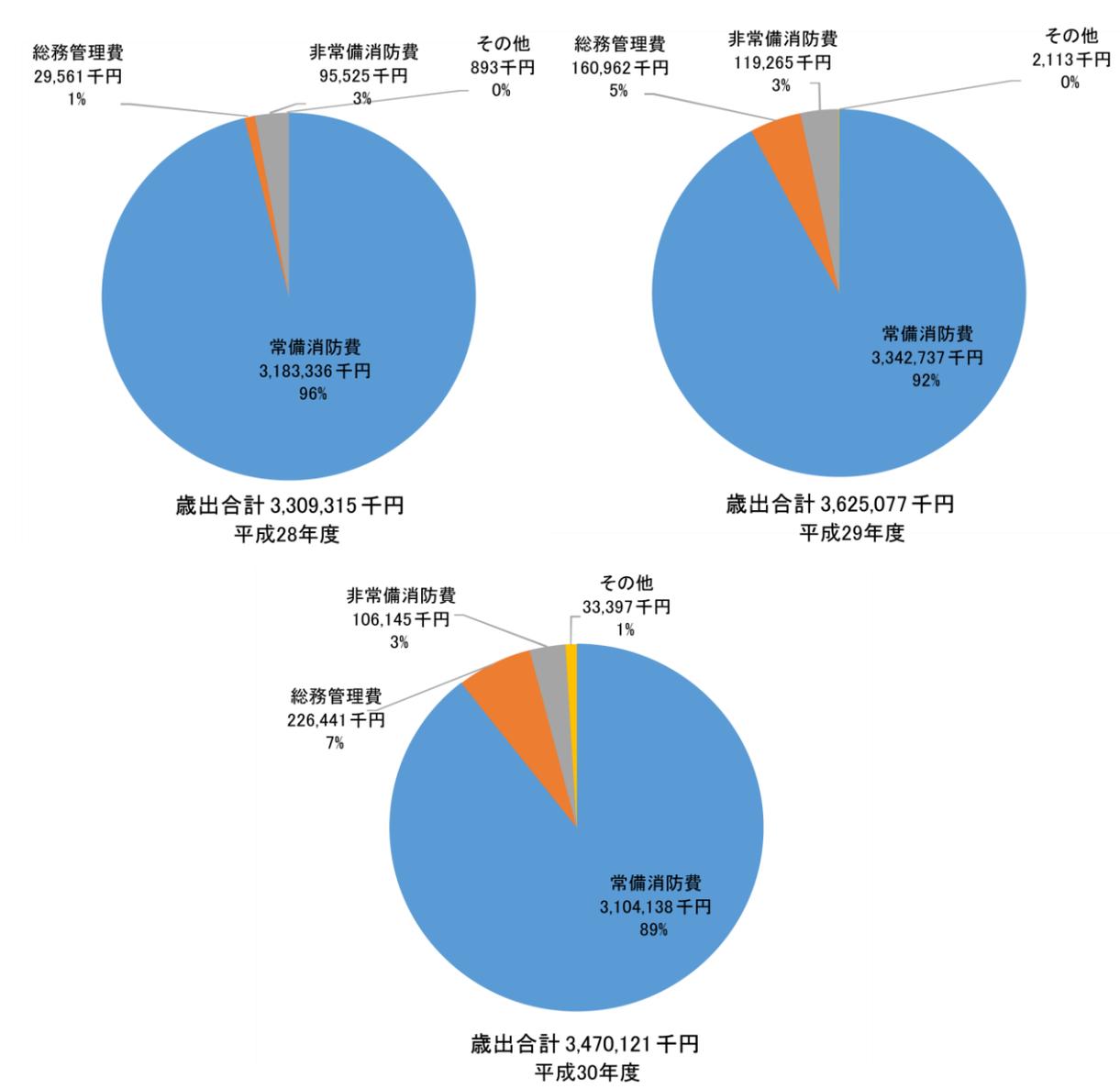
出典：平成 28 年度、平成 29 年度、平成 30 年度草加八潮消防組合一般会計歳入歳出決算書

2-1-3 歳出

本組合の平成30年度の歳出決算額は34億7,012万円となっています。

平成30年度の歳出決算額の内訳では、「常備消防費」が全体の約9割（89%：31億414万円）を占めており、次いで、「総務管理費」（7%：2億2,644万円）、「非常備消防費」（3%：1億615万円）となっています。

図表8 歳出内訳



出典：平成28年度、平成29年度、平成30年度草加八潮消防組合一般会計歳入歳出決算書

### 3 人口

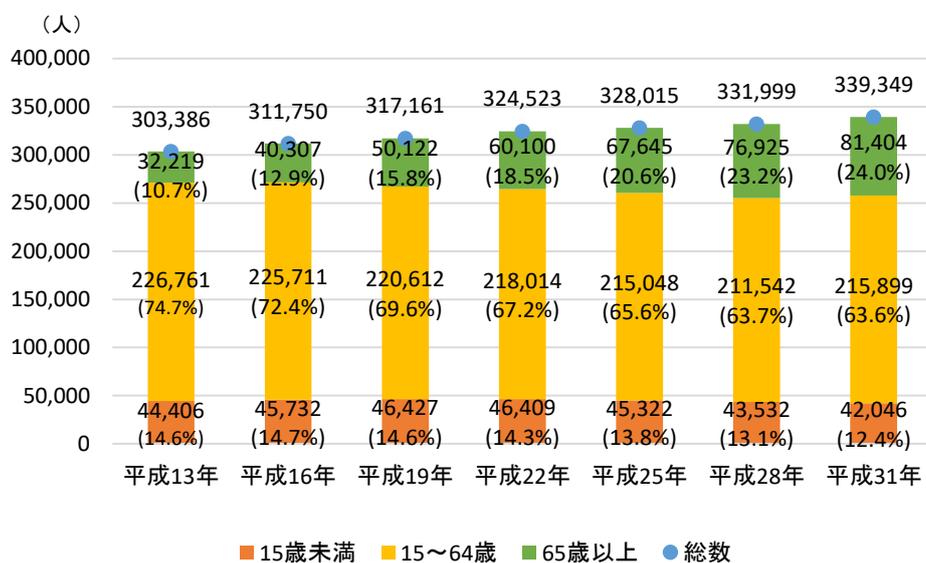
#### 3-1 総人口・世帯数の推移

##### 3-1-1 人口の推移（平成13年～平成31年）

###### ① 構成市全体

構成市全体の人口は、平成31年に339,349人となり、直近10年間の人口は増加傾向にある一方で、15～64歳の人口（生産年齢人口）は横ばいで推移、65歳以上の人口は増加していることから高齢化が進行しています。

図表9 構成市人口の推移（平成13年～平成31年）

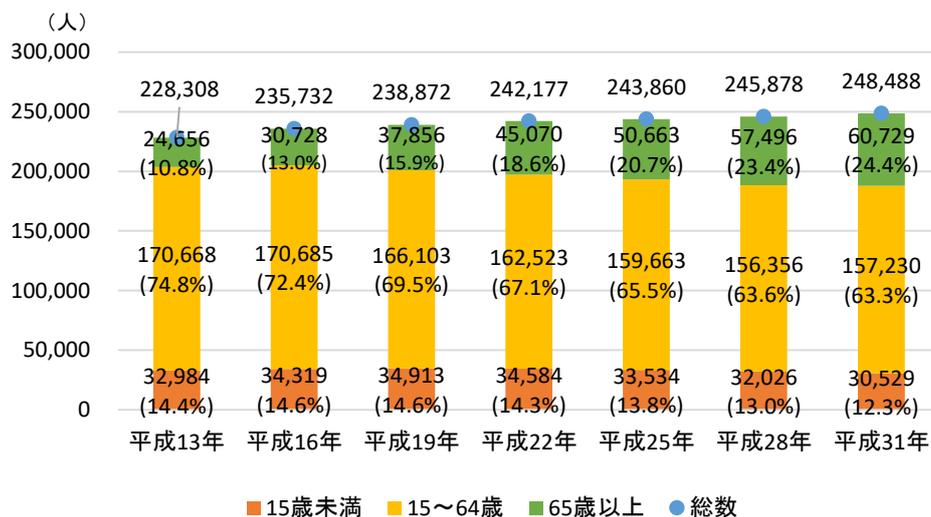


出典：構成市出典資料の積算 基準日各年1月1日

② 草加市

草加市の人口は、平成31年に248,488人となり、直近10年間の人口は堅調な推移にある一方で、15～64歳の人口（生産年齢人口）は横ばいで推移し、65歳以上の人口は増加していることから高齢化が進行しています。

図表 10 草加市人口の推移（平成13年～平成31年）

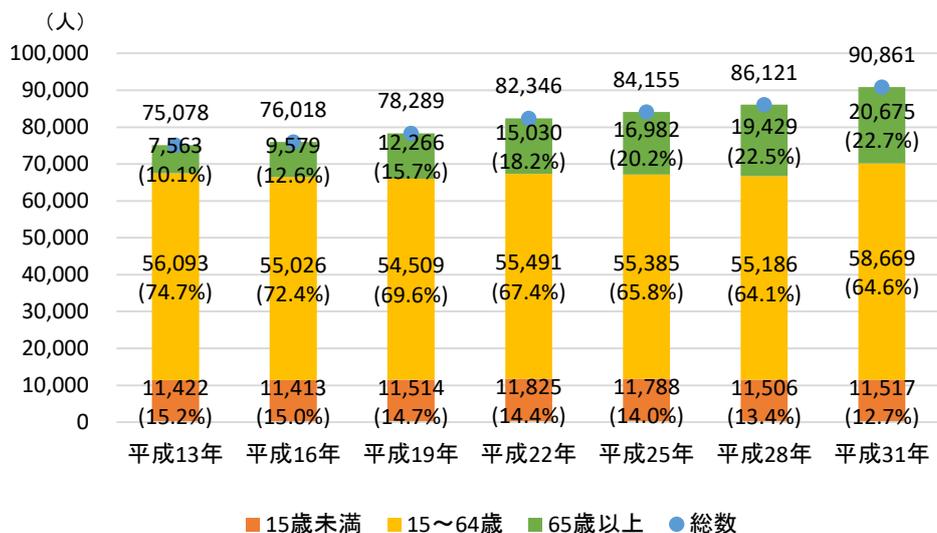


出典：草加市統計書 基準日各年1月1日

③ 八潮市

八潮市の人口は、平成31年に90,861人となり、直近10年間の人口は増加傾向にある一方で、15～64歳の人口（生産年齢人口）は横ばいで推移し、65歳以上の人口は増加していることから高齢化が進行しています。

図表 11 八潮市人口の推移（平成13年～平成31年）

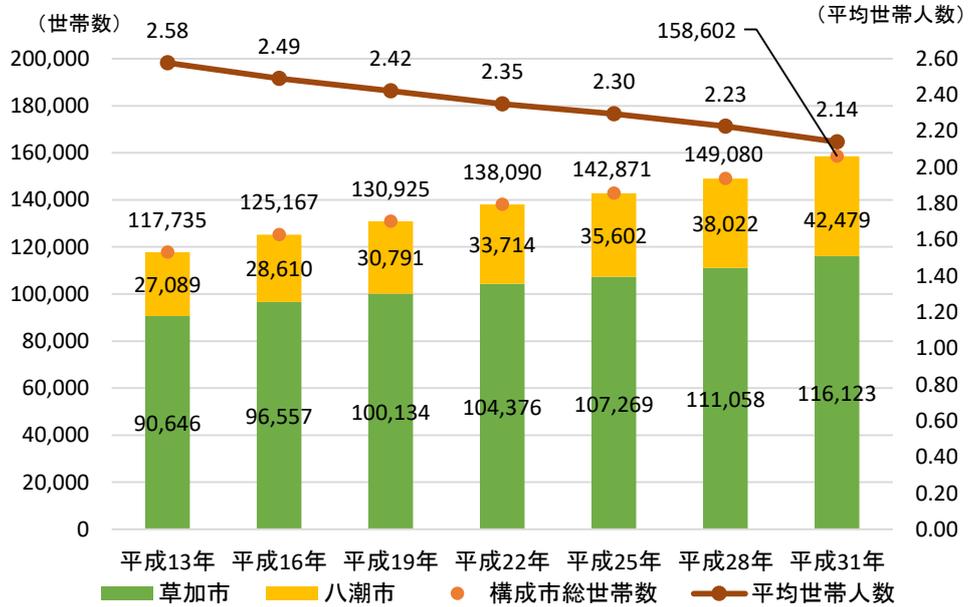


出典：八潮市企画経営課 平成31年1月1日現在人口統計資料八潮市人口ピラミッド 基準日各年1月1日

### 3-1-2 世帯数の推移

草加市、八潮市ともに世帯数は増加傾向にあります。一帯平均人数は減少傾向にあります。

図表 12 世帯数の推移（平成 13 年～平成 31 年）



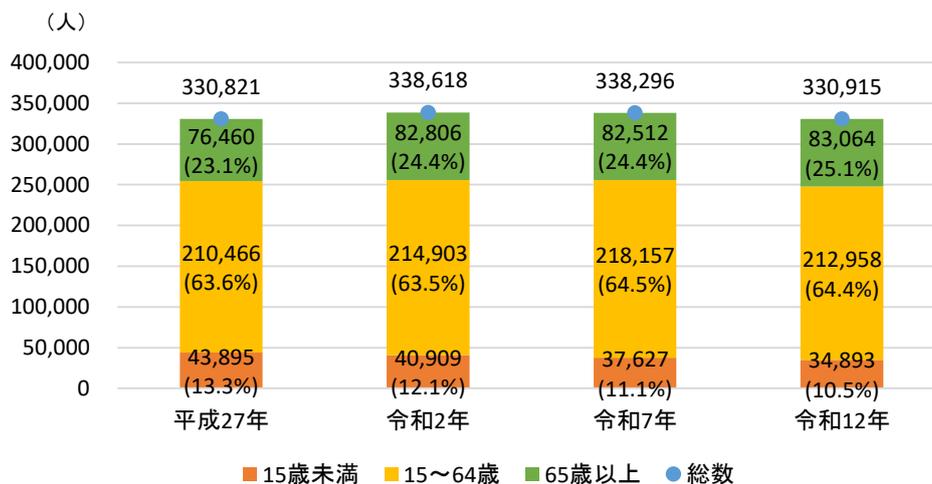
出典：草加市統計書、八潮市企画経営課 平成 31 年 1 月 1 日現在人口統計資料八潮市 平成 13 年～平成 22 年 市内住居別人口統計表平成 25 年～平成 31 年 町・字別・世帯人口表（全住民）基準日各年 1 月 1 日

### 3-2 将来人口（平成27年～令和12年）

#### ① 構成市全体

令和2年までは、人口は増加傾向にありますが、その後、減少が見込まれます。また令和2年以降は、高齢化率が徐々に上昇していくことが見込まれます。

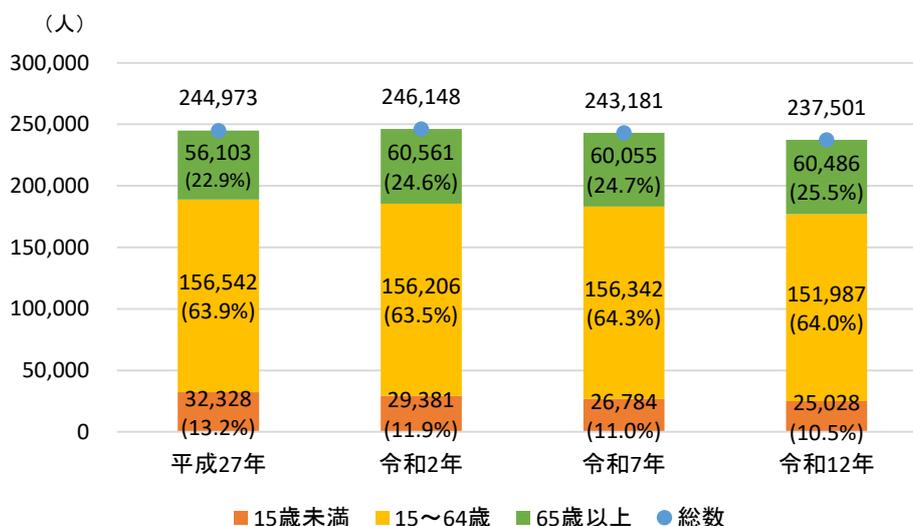
図表 13 構成市の将来人口（平成27年～令和12年）



#### ② 草加市

人口が減少傾向にあり、15～64歳の人口（生産年齢人口）の割合が落ち込み、65歳以上比率が上昇することで高齢化率が上昇することが見込まれます。

図表 14 草加市の将来人口（平成27年～令和12年）

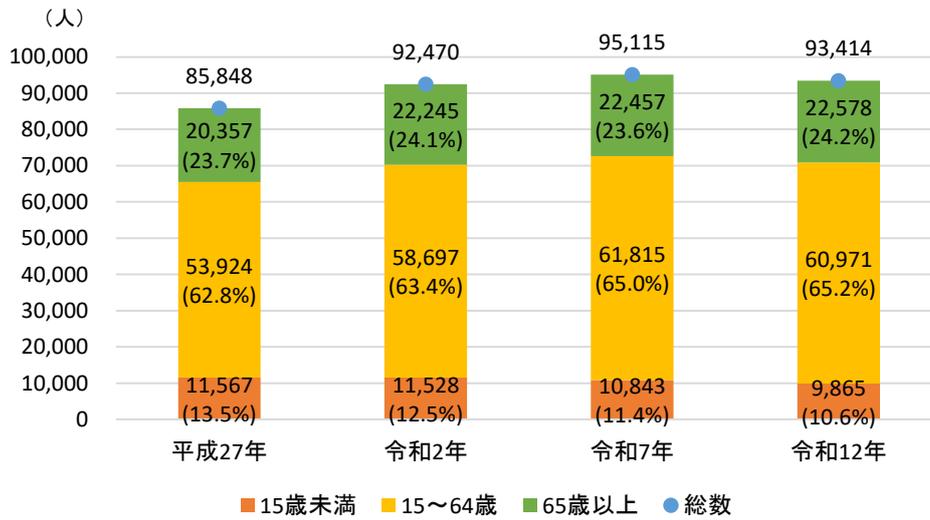


出典：平成27年 草加市人口ビジョン（平成28年3月）、令和2年以降 草加市将来人口推計（平成30年10月）

### ③ 八潮市

人口は、令和7年まで増加を続け、その後減少する見込みです。また、15～64歳の人口（生産年齢人口）の割合も落ち込み、65歳以上比率が上昇することで、高齢化率が上昇することが見込まれます。

図表 15 八潮市の将来人口（平成27年～令和12年）



注：年齢3区分の数を人口ビジョンの年齢3区分ごとの人口割合から算出しているため、小数点処理により総人口と合わないことがある。

出典：八潮市人口ビジョン（平成28年3月）

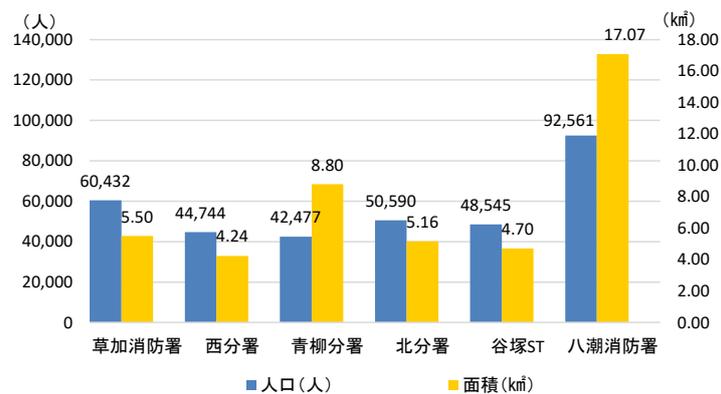
### 3-3 地域別人口

#### 3-3-1 警防出動区域

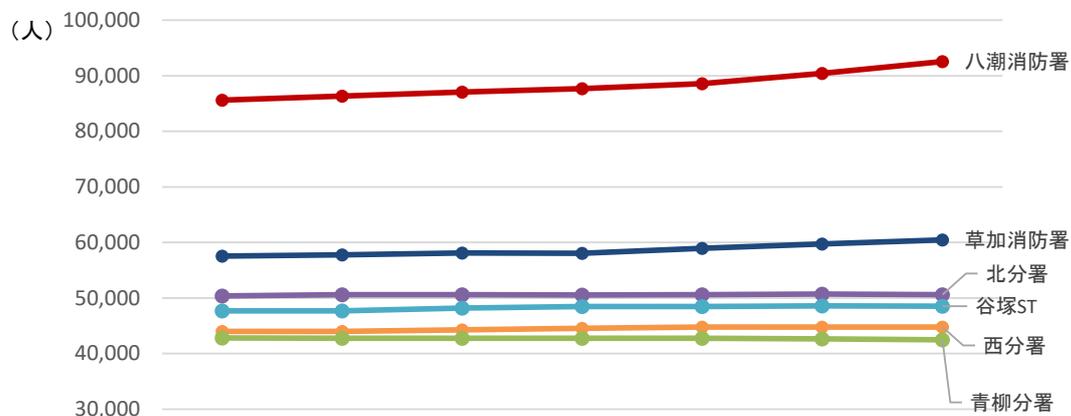
警防出動区域の人口を見ると、八潮消防署の警防出動区域の人口が92,561人と他の署所の約2倍となっています。次に草加消防署の警防出動区域の人口が60,432人と多く、最も少ない区域は青柳分署の42,477人です。

警防出動区域の人口の推移を見ると、草加市に立地する署所の警防出動区域の人口はほぼ横ばいですが、八潮消防署の警防出動区域の人口は増加傾向にあります。

図表 16 警防出動区域 人口・面積（平成31年1月1日現在）



図表 17 警防出動区域 人口推移（平成25年～平成31年）

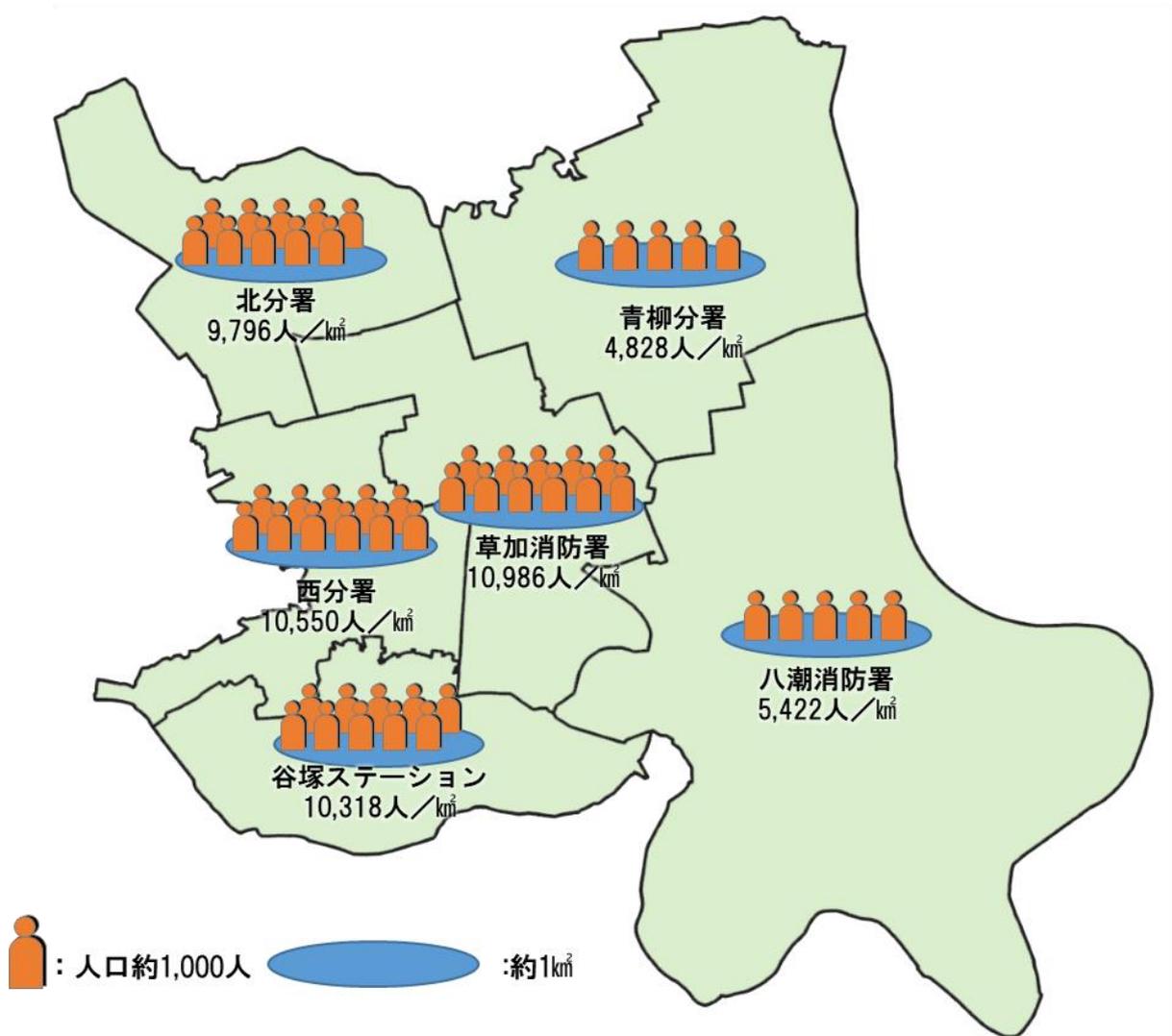


	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
草加消防署	57,523	57,768	58,080	58,047	58,968	59,722	60,432
西分署	44,010	44,009	44,259	44,551	44,792	44,775	44,744
青柳分署	42,834	42,738	42,766	42,744	42,749	42,648	42,477
北分署	50,354	50,585	50,579	50,533	50,576	50,715	50,590
谷塚ST	47,672	47,711	48,177	48,462	48,464	48,580	48,545
八潮消防署	85,622	86,368	87,084	87,662	88,572	90,446	92,561

注：人口は草加八潮消防組合警防規程(平成30年1月24日消防局訓令第1号)に基づく警防(または救急)出動区域に含まれる町丁目ごとに集計を行った。八潮市南後谷及び八條の一部は、草加消防署、青柳分署の出動区域のため面積割で算出。  
 出典：草加市町名別住民基本台帳人口、市内住所別 人口統計表／八潮市 基準日各年1月1日

人口密度については、草加消防署、西分署、北分署、谷塚ステーションの区域の人口密度が10,000人/㎢前後であるのに対して、青柳分署と八潮消防署の人口密度は約半分の5,000人/㎢前後と人口密度が低い状況にあります。

図表 18 警防出動区域 人口密度

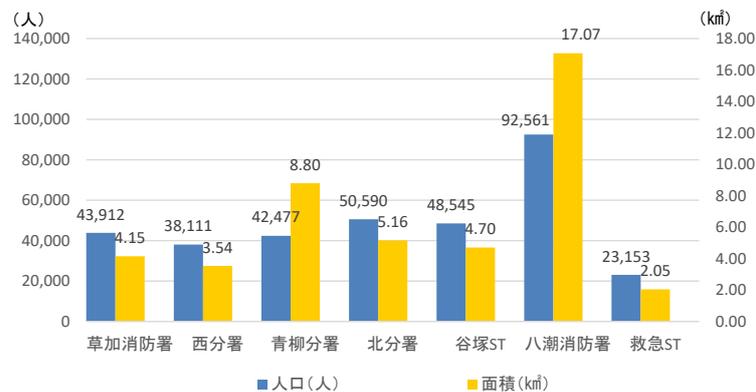


出典：草加市町名別住民基本台帳人口、市内住所別 人口統計表／八潮市 基準日各年1月1日

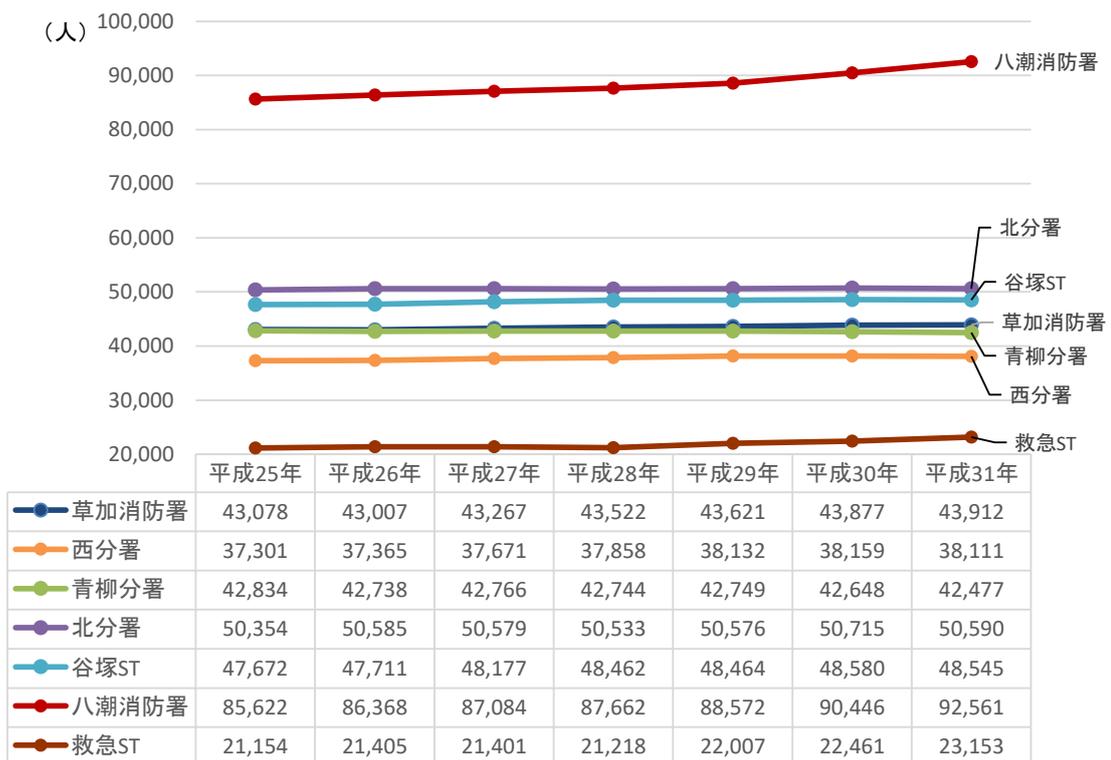
### 3-3-2 救急出動区域

救急出動区域の人口を見ると、八潮消防署の救急出動区域の人口が92,561人と他の署所の約2倍となっています。次に北分署の救急出動区域の人口が50,590人と多く、最も少ない区域は救急ステーションの23,153人です。

図表 19 救急出動区域 人口・面積（平成31年1月1日現在）



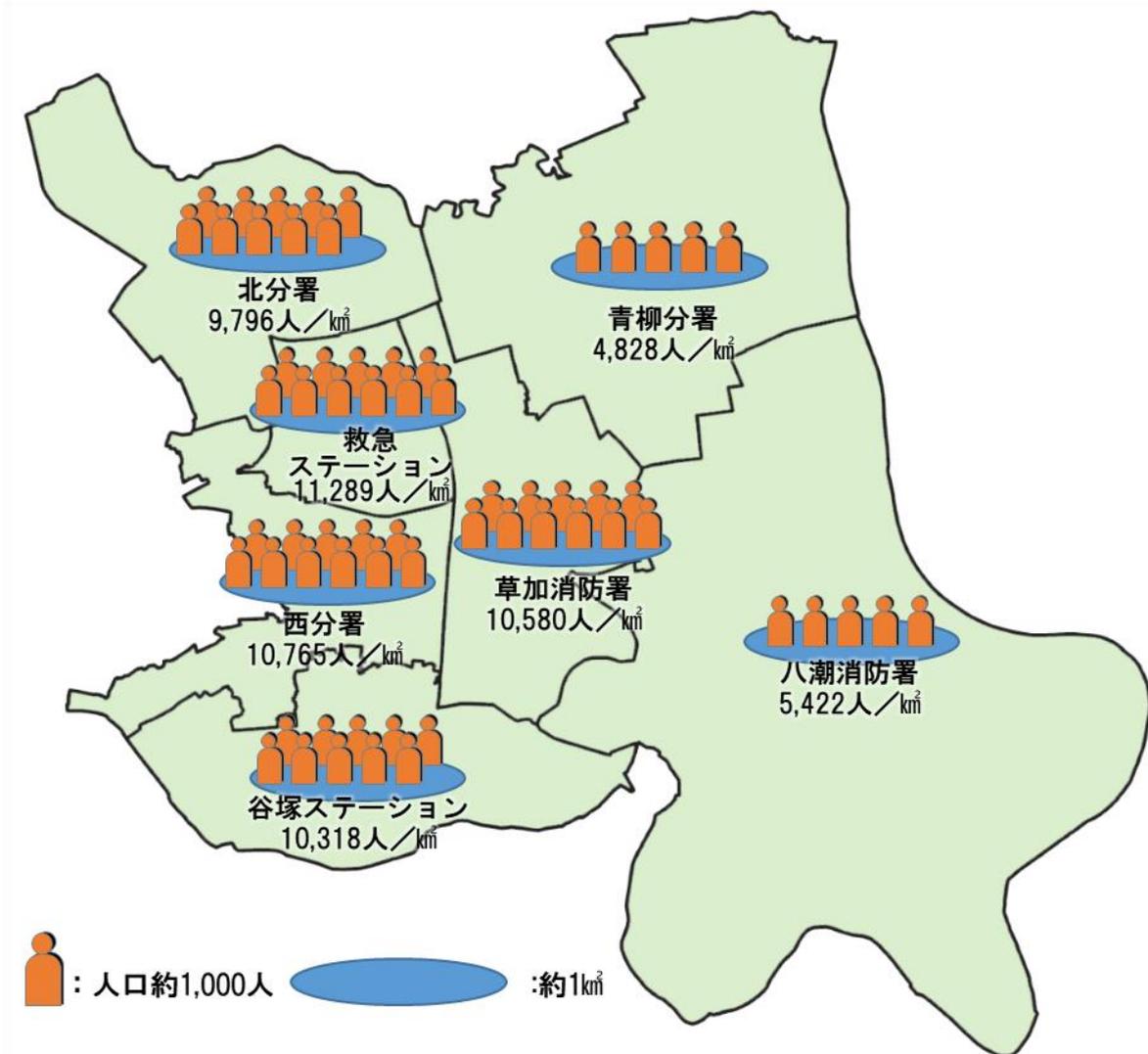
図表 20 救急出動区域 人口推移（平成25年～平成31年）



注：人口は草加八潮消防組合警防規程(平成30年1月24日消防局訓令第1号)に基づく警防(または救急)出動区域に含まれる町丁目ごとに集計を行った。八潮市南後谷及び八條の一部は、草加消防署、青柳分署の出動区域のため面積割で算出。  
 出典：草加市町名別住民基本台帳人口、市内住所別人口統計表／八潮市 基準日各年1月1日

人口密度については、草加消防署、西分署、北分署、谷塚ステーション、救急ステーションの区域の人口密度が 10,000 人/㎢前後であるのに対して、青柳分署と八潮消防署の人口密度は約半分の 5,000 人/㎢前後と人口密度が低い状況にあります。

図表 21 救急出動区域 人口密度



出典：草加市町名別住民基本台帳人口、市内住所別 人口統計表／八潮市 基準日各年 1 月 1 日

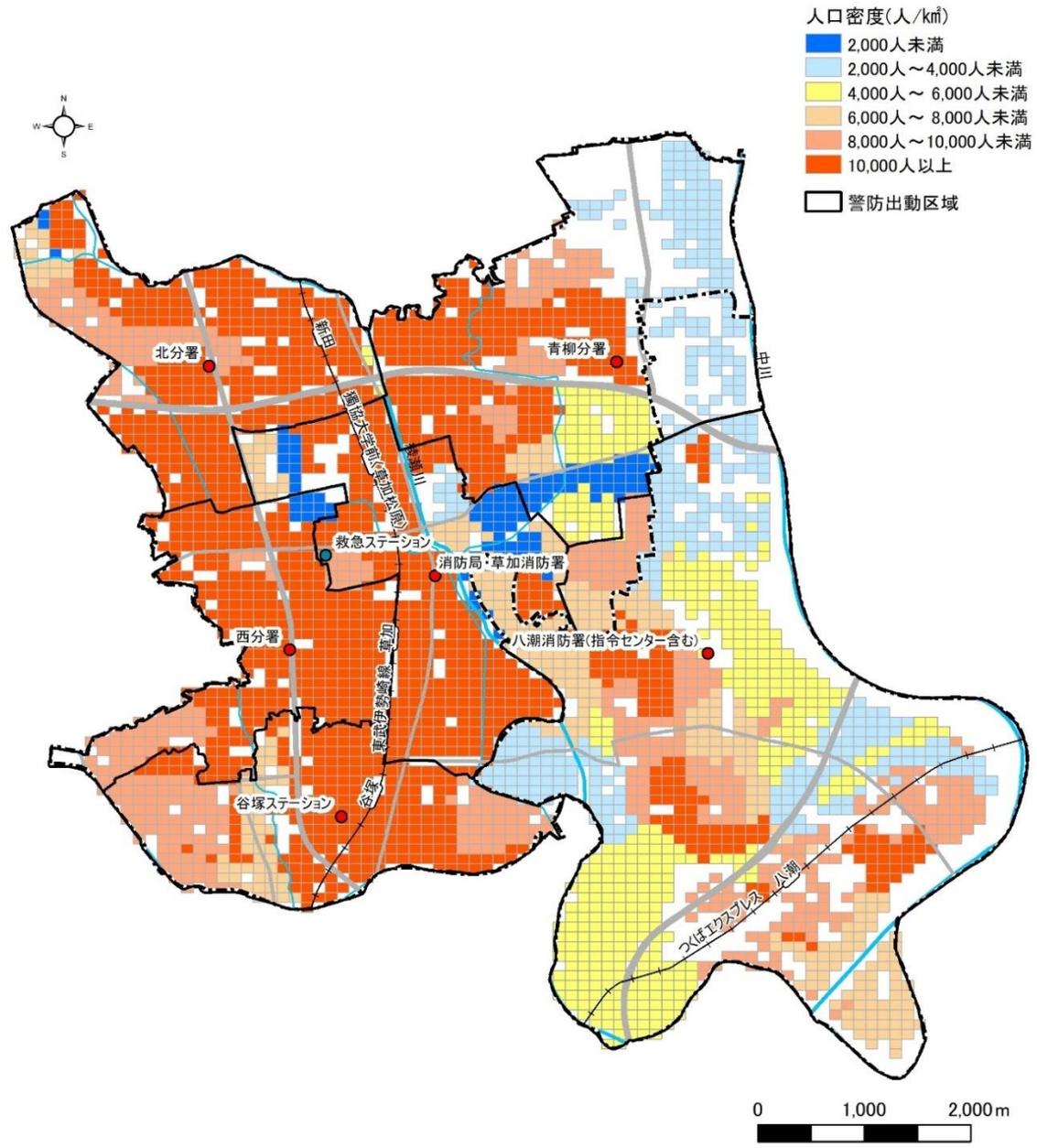
### 3-4 人口密度

平成27年国勢調査による100mメッシュ(約100m四方、約1ha)当たりの人口の分布状況を見ると、草加消防署、西分署、北分署、谷塚ステーションの区域のメッシュにおいては、赤色を示すメッシュが多く、高密度な市街地を形成しています。

他の署所より比較的人口密度の低い青柳分署と八潮消防署は、部分的に人口が集中しています。青柳分署は、区域の東側は低密度ですが、それ以外の地域に集中して人口が集積しています。八潮消防署は、八潮消防署の周辺から八潮駅にかけての区域の中心とつくばエクスプレス沿線の区域の南側に人口が集積しています。

人口密度については、草加消防署、西分署、北分署、谷塚ステーションの区域の人口密度が10,000人/km<sup>2</sup>前後であるのに対して、青柳分署と八潮消防署の人口密度は約半分の5,000人/km<sup>2</sup>前後の区域が散見され、ばらつきが見られます。

図表 22 人口密度（平成 27 年度）

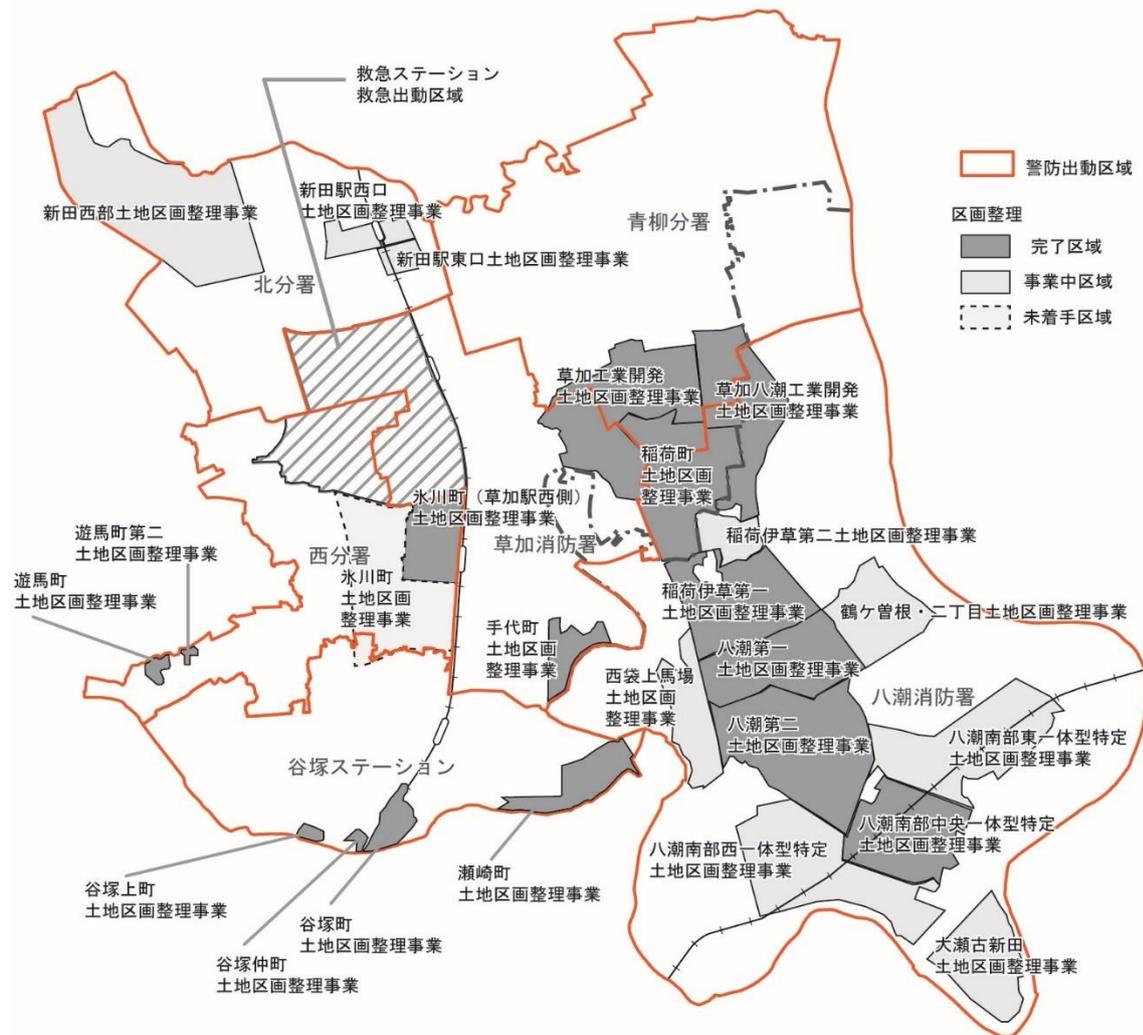


出典：平成 27 年国勢調査

■参考 土地区画整理事業

管轄区域内では現在も土地区画整理事業が実施されており、当該地域においては今後も人口増加が見込まれます。

図表 23 土地区画整理事業区域（県・市・都市再生機構による施行）



## 4 災害の発生状況

### 4-1 管内全体

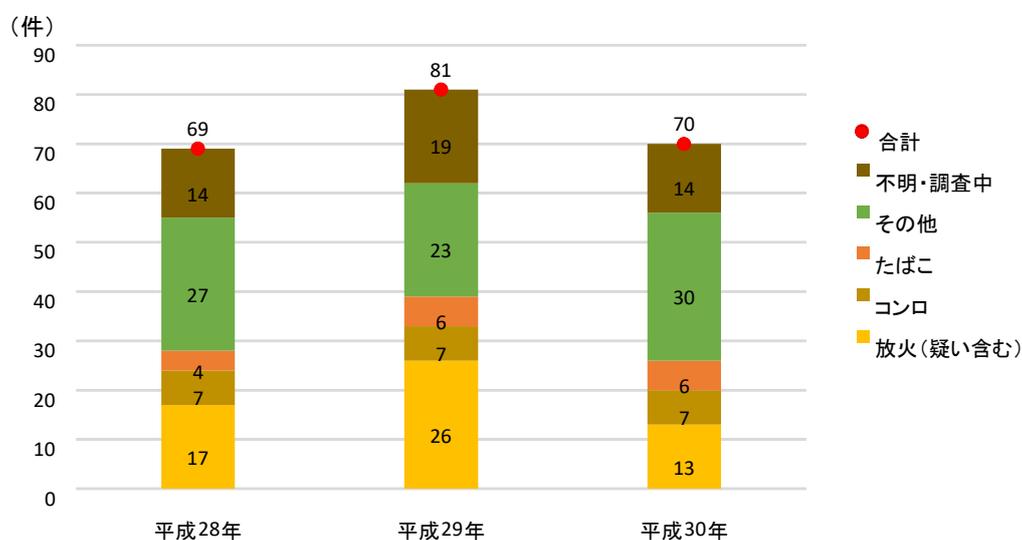
#### 4-1-1 消防（火災）

平成 28 年から平成 30 年にかけての火災は、年間約 70～80 件程度発生しています。

火災の原因としては、発火や爆発等のその他の火災、放火（疑い含む）が多くを占めています。

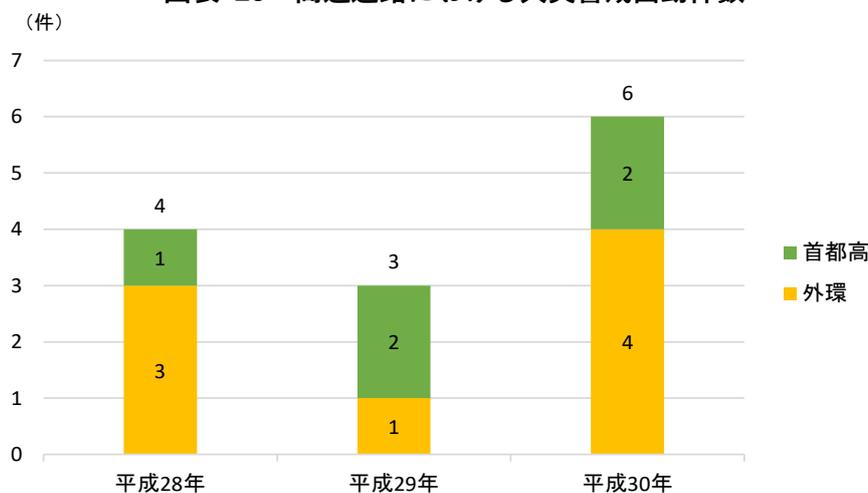
平成 28 年から平成 30 年にかけての高速道路における火災警戒出動は、年間 3～6 件程度出動しています。

図表 24 火災件数



出典：平成 29 年、平成 30 年、令和元年版消防年報

図表 25 高速道路における火災警戒出動件数



出典：平成 28 年、平成 29 年、平成 30 年火災活動報告書

注：高速道路出動区域：首都高（上り：八潮南ランプ-加平ランプ、下り：八潮南ランプ-三郷 IC） 外環道（外回り：草加 IC-三郷南 IC、三郷 JCT-三郷東料金所／内回り：草加 IC-川口 JCT、三郷 JCT-三郷西）

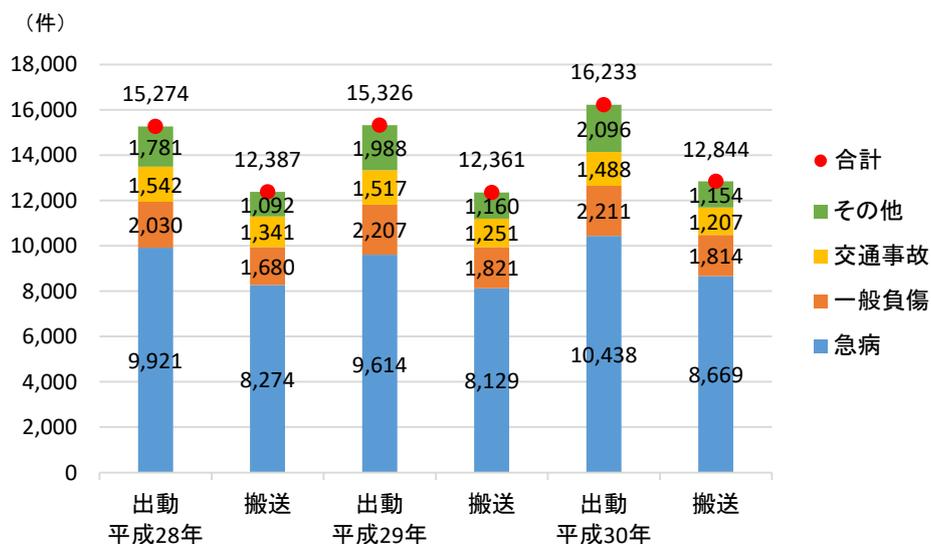
### 4-1-2 救急

平成28年から平成30年にかけての救急出動件数は、年間15,000件を超えています。急病による出動件数及び搬送人員が最も多い状況にあります。

また、今後、65歳以上の高齢者の人口が増えていくと、救急需要はますます増大することが予想されます。

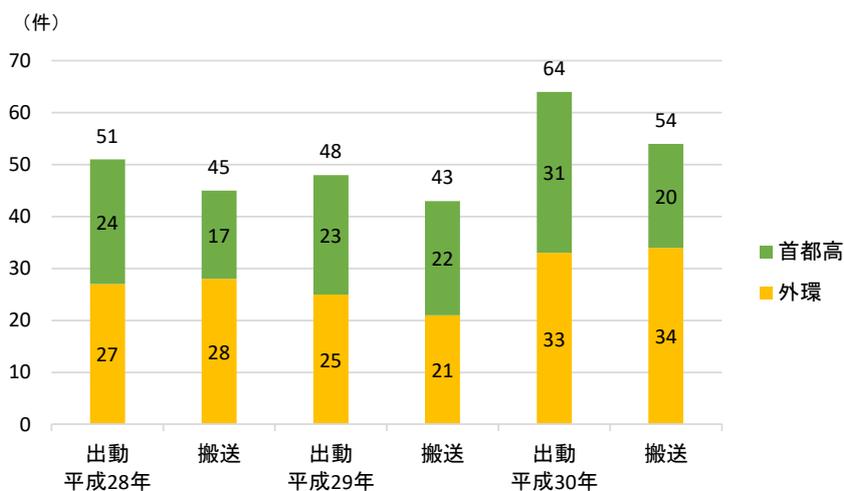
平成28年から平成30年にかけて組合管内の高速道路における救急出動は、年間約50～60件程度出動しています。

図表 26 救急出動件数・搬送人員



出典：令和元年版消防年報

図表 27 高速道路における救急出動件数・搬送人員



出典：平成29年、平成30年、令和元年版消防年報

注：高速道路出動区域：首都高（上り：八潮南ランプ-加平ランプ、下り：八潮南ランプ-三郷IC） 外環道（外回り：草加IC-三郷南IC、三郷JCT-三郷東料金所／内回り：草加IC-川口JCT、三郷JCT-三郷西）

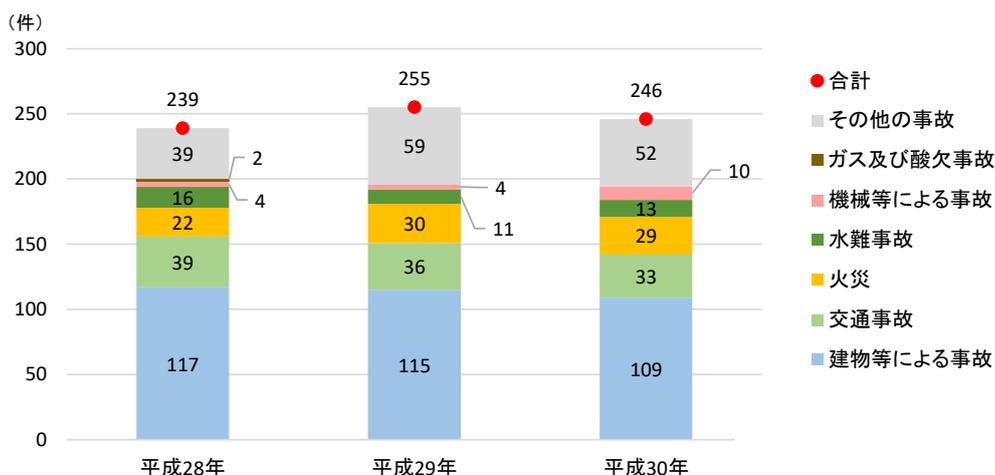
### 4-1-3 救助

平成 28 年から平成 30 年にかけての救助出動件数は、約 240～260 件で推移しています。

最も多いのは、建物等による事故で、次いで交通事故、火災、水難事故、機械等による事故となっています。管内には大小様々な河川が流れており、一定数の水難事故が毎年発生しています。

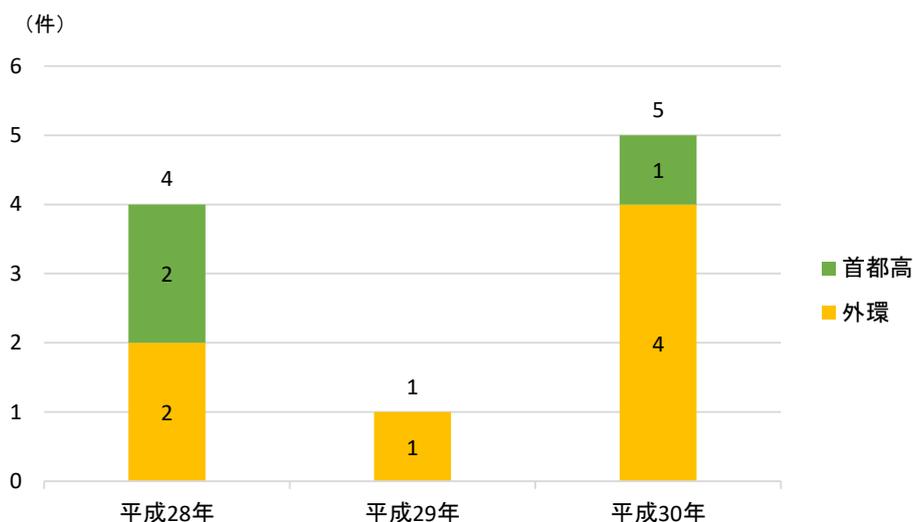
平成 28 年から平成 30 年にかけて組合管内の高速道路における救助出動は、年間 1～5 件程度出動しています。

図表 28 救助出動件数



出典：平成 29 年、平成 30 年、令和元年版消防年報

図表 29 高速道路における救助出動件数



出典：平成 28 年、平成 29 年、平成 30 年救助出動報告書

注：高速道路出動区域：首都高（上り：八潮南ランプ-加平ランプ、下り：八潮南ランプ-三郷 IC） 外環道（外回り：草加 IC-三郷南 IC、三郷 JCT-三郷東料金所／内回り：草加 IC-川口 JCT、三郷 JCT-三郷西）

## 4-2 出動区域別の現況

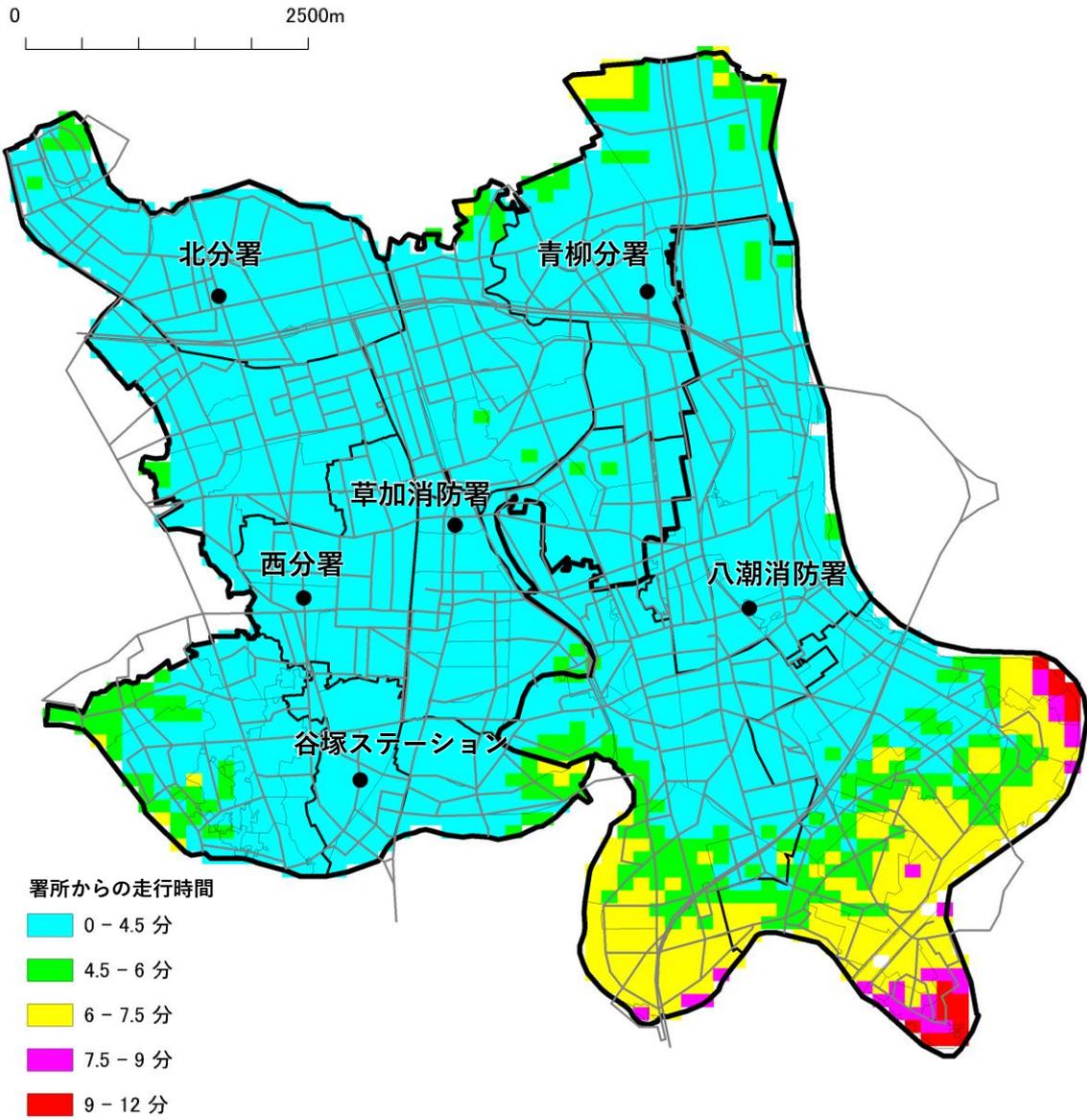
### 4-2-1 区域全体

常備消防の出動区域については、両構成市境が解消され、現状の消防署所の位置のもとで市境付近における管轄区域の適正化が図られているものの、管内全体では消防力の不均衡が生じている地域も存在しています。

図表 30 出動区域図



図表 31 消防署所からの消防車両の走行時間（現状署所）



出典：草加八潮消防組合消防力適正配置等調査報告書（平成 30 年 3 月）

4-2-2 面積

① 警防出動区域

警防出動区域の面積を見ると、八潮消防署の警防出動区域が 17.07 km<sup>2</sup>と救急出動区域ともに最も広域となっています。青柳分署も他の署所と比較すると広域となっています。

図表 32 警防出動区域の面積



出典：草加市統計書（平成 29 年版）町名別面積、統計やしお（平成 29 年版）町名別面積、八條と南後谷の県道による分解面積は GIS により計測

② 救急出動区域

救急出動区域の面積を見ると、警防出動区域と同様の傾向が見られます。

図表 33 救急出動区域の面積



出典：草加市統計書（平成 29 年版）町名別面積、統計やしお（平成 29 年版）町名別面積、八條と南後谷の県道による分解面積は GIS により計測

### 4-2-3 中高層建物数

草加消防署の警防出動区域に最も多く立地しており、次いで八潮消防署の警防出動区域となっています。その他の地域は、各々400棟前後が立地しています。

図表 34 警防出動区域の中高層建物数



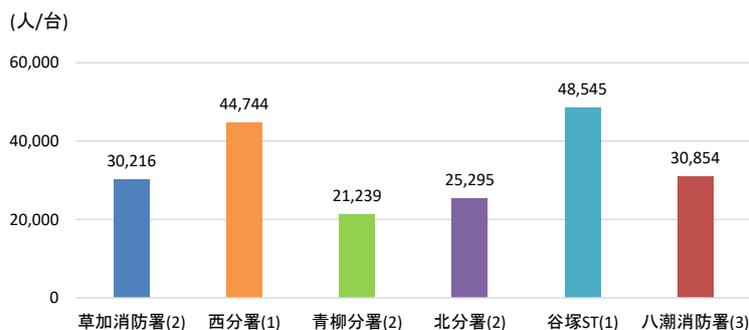
平成 29 年 1 月 1 日現在  
3 階以上の建物を中高層建物とした

#### 4-2-4 車両 1 台当たりの人口

##### ① 警防出動区域

警防出動区域ごとに見ると、谷塚ステーションと西分署の 1 台当たりの人口が多くなっています。

図表 35 消防ポンプ自動車 1 台当たりの人口



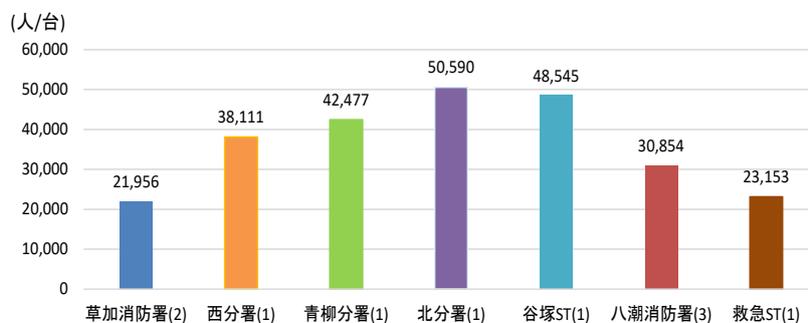
( ) は消防ポンプ自動車の台数 予備車は除く

出典：草加市町名別住民基本台帳人口、市内住所別 人口統計表／八潮市 基準日平成 31 年 1 月 1 日

##### ② 救急出動区域

救急出動区域ごとに見ると、青柳分署、北分署、谷塚ステーションの 1 台当たりの人口が多くなっています。

図表 36 救急自動車 1 台当たりの人口



( ) は救急自動車の台数 予備車は除く

出典：草加市町名別住民基本台帳人口、市内住所別 人口統計表／八潮市 基準日平成 31 年 1 月 1 日

図表 37 車両台数 (台)

	消防ポンプ自動車数	救急自動車数
草加消防署	2	2
西分署	1	1
青柳分署*	2	1
北分署	2	1
谷塚ステーション	1	1
八潮消防署	3	3
救急ステーション	—	1

※化学消防車 1 台を消防ポンプ自動車として運用しているため、消防ポンプ自動車 1 台、化学消防車 1 台の計 2 台としている。

## 4-2-5 事案発生件数

### ① 火災事案発生件数

平成 26 年から平成 30 年にかけての過去 5 年分の年間火災事案発生件数について、期間内の年間発生件数の平均では、八潮消防署の警防出動区域内の件数が多く、西分署が少なくなっています。その他署所の中では、谷塚ステーションがやや高い傾向にあります。

図表 38 火災事案件数

広域化前 ← | → 広域化後

警防出動区域	面積	2014(H26)		2015(H27)		2016(H28)		2017(H29)		2018(H30)		事案件数 合計	年平均
		事案件数	人口 2015.1.1	事案件数	人口 2016.1.1	事案件数	人口 2017.1.1	事案件数	人口 2018.1.1	事案件数	人口 2019.1.1		
草加消防署	5.50km <sup>2</sup>	11	58,080	16	58,047	7	58,968	7	59,722	8	60,432	49	9.8
西分署	4.24km <sup>2</sup>	4	44,259	9	44,551	8	44,792	8	44,775	8	44,744	37	7.4
青柳分署	8.80km <sup>2</sup>	13	42,766	6	42,744	10	42,749	11	42,648	7	42,477	47	9.4
北分署	5.16km <sup>2</sup>	14	50,579	8	50,533	6	50,576	12	50,715	9	50,590	49	9.8
谷塚ST	4.70km <sup>2</sup>	14	48,177	10	48,462	14	48,464	6	48,580	10	48,545	54	10.8
八潮消防署	17.07km <sup>2</sup>	28	87,084	13	87,662	27	88,572	37	90,446	28	92,561	133	26.6

注：人口は草加八潮消防組合警防規程(平成 30 年 1 月 24 日消防局訓令第 1 号)に基づく警防(または救急)出動区域に含まれる町丁目ごとに集計を行った。八潮市南後谷及び八條の一部は、草加消防署、青柳分署の出動区域のため面積割で算出。  
出典：消防年報、草加市町名別住民基本台帳人口、市内住所別 人口統計表/八潮市 基準日各年 1 月 1 日

### ② 救急事案件数

平成 26 年から平成 30 年にかけての過去 5 年分の年間救急事案発生件数について、期間内の年間発生件数の平均では、八潮消防署の救急出動区域内の件数が多く、西分署が少なくなっています。その他署所の中では、北分署がやや高い傾向にあります。

図表 39 救急事案件数

広域化前 ← | → 広域化後

救急出動区域	面積	2014(H26)		2015(H27)		2016(H28)		2017(H29)		2018(H30)		事案件数 合計	年平均
		事案件数	人口 2015.1.1	事案件数	人口 2016.1.1	事案件数	人口 2017.1.1	事案件数	人口 2018.1.1	事案件数	人口 2019.1.1		
草加消防署	4.15km <sup>2</sup>	1,999	43,267	2,006	43,522	2,134	43,621	2,007	43,877	2,248	43,912	10,394	2,078.8
西分署	3.54km <sup>2</sup>	1,533	37,671	1,504	37,858	1,563	38,132	1,557	38,159	1,709	38,111	7,866	1,573.2
青柳分署	8.80km <sup>2</sup>	1,654	42,766	1,636	42,744	1,778	42,749	1,844	42,648	1,864	42,477	8,776	1,755.2
北分署	5.16km <sup>2</sup>	2,170	50,579	2,089	50,533	2,135	50,576	2,626	50,715	2,187	50,590	11,207	2,241.4
谷塚ST	4.70km <sup>2</sup>	2,049	48,177	2,040	48,462	2,183	48,464	2,139	48,580	2,241	48,545	10,652	2,130.4
八潮消防署	17.07km <sup>2</sup>	3,926	87,084	4,015	87,662	4,075	88,572	4,101	90,446	4,395	92,561	20,512	4,102.4
救急ST	2.05km <sup>2</sup>	1,297	21,401	1,332	21,218	1,375	22,007	968	22,461	1,488	23,153	6,460	1,292.0

注：人口は草加八潮消防組合警防規程(平成 30 年 1 月 24 日消防局訓令第 1 号)に基づく警防(または救急)出動区域に含まれる町丁目ごとに集計を行った。八潮市南後谷及び八條の一部は、草加消防署、青柳分署の出動区域のため面積割で算出。  
出典：消防年報、草加市町名別住民基本台帳人口、市内住所別 人口統計表/八潮市 基準日各年 1 月 1 日



## 5 全施設の現況

本組合が所有または使用し、管理する消防施設として、次の45施設を対象として分析を行います。なお、救急ステーションは、草加市立病院の所管する施設のため除きます。

図表 40 対象施設一覧

	施設名称	所在地
1	消防局・草加消防署	草加市神明二丁目2番2号
2	草加消防署西分署	草加市西町108番地2
3	草加消防署青柳分署	草加市青柳六丁目23番6号
4	草加消防署青柳分署化学車庫	草加市青柳六丁目23番6号
5	草加消防署北分署	草加市清門二丁目1番地43
6	草加消防署谷塚ステーション	草加市谷塚町525番地2
7	八潮消防署(指令センター含む)	八潮市鶴ヶ曽根1185番地
8	八潮消防署訓練塔A棟	八潮市鶴ヶ曽根1185番地
9	八潮消防署訓練塔B棟	八潮市鶴ヶ曽根1185番地
10	八潮消防署車両車庫	八潮市鶴ヶ曽根1185番地
11	草加市消防団第1分団第1部機械器具置場	草加市瀬崎二丁目34番1号
12	草加市消防団第1分団第2部機械器具置場	草加市谷塚町525番地2
13	草加市消防団第1分団第3部機械器具置場	草加市柳島町59番地1
14	草加市消防団第2分団第1部機械器具置場	草加市吉町三丁目3番53号
15	草加市消防団第2分団第2部機械器具置場	草加市高砂一丁目7番22号
16	草加市消防団第2分団第3部機械器具置場	草加市氷川町2104番地10
17	草加市消防団第3分団第1部機械器具置場	草加市神明二丁目2番2号
18	草加市消防団第3分団第2部機械器具置場	草加市稲荷三丁目20番7号
19	草加市消防団第3分団第3部機械器具置場	草加市小山二丁目10番8号
20	草加市消防団第4分団第1部機械器具置場	草加市八幡町41番地
21	草加市消防団第4分団第2部機械器具置場	草加市旭町六丁目12番4号
22	草加市消防団第4分団第3部機械器具置場	草加市清門三丁目39番地1
23	草加市消防団第5分団第1部消防ステーション	草加市青柳七丁目27番10号
24	草加市消防団第5分団第2部機械器具置場	草加市柿木町450番地
25	八潮市消防団第1分団第1部機械器具置場	八潮市八條411番地1
26	八潮市消防団第1分団第2部機械器具置場	八潮市八條3621番地3
27	八潮市消防団第1分団第3部機械器具置場	八潮市八條2638番地5
28	八潮市消防団第1分団第4部機械器具置場	八潮市鶴ヶ曽根1907番地4
29	八潮市消防団第1分団第5部機械器具置場	八潮市緑町二丁目1番地11
30	八潮市消防団第1分団第6部機械器具置場	八潮市伊草288番地2
31	八潮市消防団第2分団第1部機械器具置場	八潮市二丁目207番地
32	八潮市消防団第2分団第2部機械器具置場	八潮市二丁目1238番地1
33	八潮市消防団第2分団第3部機械器具置場	八潮市南川崎823番地3
34	八潮市消防団第2分団第4部機械器具置場	八潮市大瀬49番地1
35	八潮市消防団第2分団第5部機械器具置場(詰所)	八潮市古新田1061番地
36	八潮市消防団第2分団第5部機械器具置場(車庫)	八潮市古新田1061番地
37	八潮市消防団第2分団第6部機械器具置場	八潮市八潮一丁目22番地9
38	八潮市消防団第2分団第7部機械器具置場	八潮市垢125番地1
39	八潮市消防団第3分団第1部機械器具置場	八潮市八潮七丁目9番地15
40	八潮市消防団第3分団第2部機械器具置場	八潮市八潮六丁目1番地10
41	八潮市消防団第3分団第3部機械器具置場	八潮市大曾根494番地
42	八潮市消防団第3分団第4部機械器具置場	八潮市浮塚450番地1
43	八潮市消防団第3分団第5部機械器具置場(詰所)	八潮市西袋58番地1
44	八潮市消防団第3分団第5部機械器具置場(車庫)	八潮市西袋58番地1
45	八潮市消防団第3分団第6部機械器具置場	八潮市南後谷763番地

## 5-1 施設数と面積

常備消防施設は、草加市内に1署3分署1ステーション(所)、八潮市内に1署の計6署所と、八潮消防署の訓練塔などを含む10施設です。

消防団の活動拠点となる機械器具置場等の非常備消防施設は、草加市に5分団14部、八潮市に3分団19部で詰所など35施設です。<sup>※1</sup>

施設数の合計は45施設で、総延床面積は10,391.28㎡です。

## 5-2 安全・安心の現況

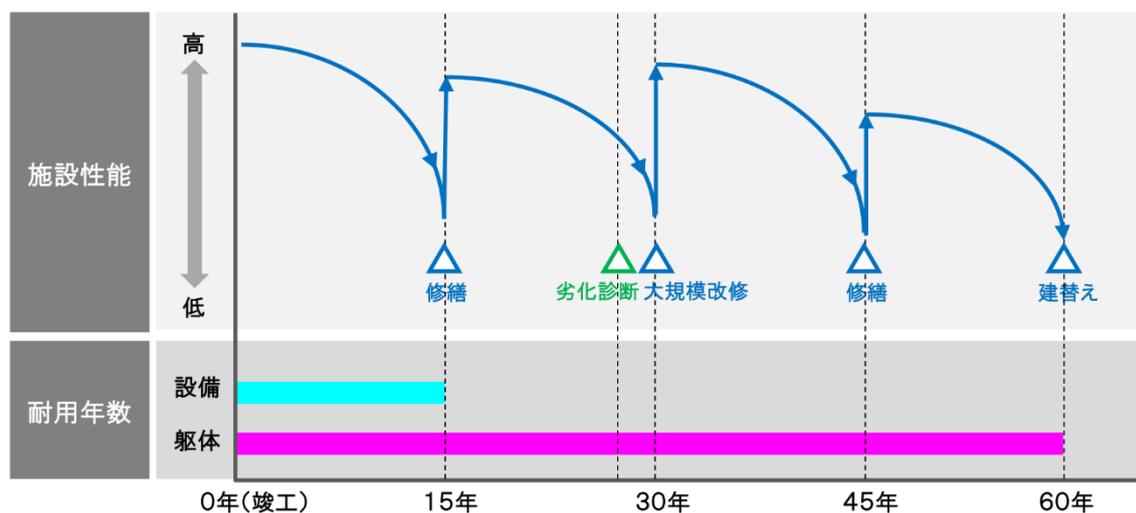
### 5-2-1 耐用年数を過ぎた施設数と割合

財務省の減価償却資産の耐用年数に関する省令に基づく耐用年数を過ぎた施設は20施設あります。約44%の施設が耐用年数を超過しています。

### 5-2-2 大規模改修の実施状況

大規模改修は、施設の耐久性に関わる工事です。一般的に設備の耐用年数は15年～20年、躯体の耐用年数は40年～60年程度であることから、大規模改修は建物竣工後15年目から30年目に実施することが通常です。大規模改修は、八潮市消防団の7施設と改修時期を迎えていない施設を除き全ての施設で未実施です。

図表 41 施設の耐用年数と施設性能の関係イメージ



- 一般的に設備の耐用年数は15年～20年、躯体の耐用年数は40年～60年程度
- 大規模改修は建物竣工後15年目～30年目に実施することが通常
- 大規模改修前に劣化診断を行い、建物の劣化状況を把握したうえで大規模改修の実施内容を決定する
- 躯体が耐用年数に達する時期に建替えを実施する

※1 八潮市消防団第2分団第5部、第3分団第5部の機械器具置場について、詰所と車庫が別棟。

### 5-2-3 耐震改修の実施状況

耐震改修は、旧耐震建物で耐震性に問題があると思われる建築物に対して行う補強工事です。耐震改修を実施済みが 1 施設、未実施の施設が 11 施設、不要の施設が 33 施設です。

### 5-2-4 劣化診断の実施状況

劣化診断は、建築物の躯体や設備の劣化状況に関する調査・診断で、大規模改修が想定される建物について、事前に劣化状況を把握するために行います。劣化診断は、全ての施設で未実施です。

### 5-2-5 アスベストへの対応状況

建築材料としてのアスベストの使用規制を受け、建築物におけるアスベストの使用の有無に関する調査とアスベストの使用が認められた場合の飛散防止のための対策工事が求められています。アスベスト調査を実施し、対応が必要な草加消防署青柳分署については適正に対策を講じています。

### 5-2-6 耐震基準の状況

新築時の確認済証取得年月日が昭和 56 年 5 月 31 日以前の施設である旧耐震基準の施設が 12 施設、同年 6 月 1 日以降の施設である新耐震基準の施設が 33 施設です。旧耐震基準の施設のうち、耐震診断が未実施の施設については、早期に実施する必要があります。

草加消防署青柳分署は建物の耐震性能を表す指標の  $I_s$  値が 0.6 未満で、草加消防署は 0.75 であるため、災害活動拠点となる施設に必要な  $I_s$  値 0.9 を確保する必要があります。

### 5-2-7 バリアフリーへの対応状況

バリアフリーに対応している施設が 4 施設、未対応の施設が 2 施設、対象外の施設が 39 施設です。未対応の施設は、常備消防施設のため、バリアフリー対応を検討する必要があります。

図表 42 アスベスト・耐震基準・バリアフリー対応の状況

	アスベスト対応 (施設)			耐震基準 (施設)		バリアフリー (施設)		
	対応済み	対応不要	調査不要	旧耐震	新耐震	対応	未対応	対象外
常備消防施設	1	2	7	2	8	4	2	4
非常備消防施設	0	31	4	10	25	0	0	35
合計	1	33	11	12	33	4	2	39

## 【個別基礎施設データ一覧】

番号	施設名称	竣工年	耐用年数 到達までの 年数	敷地面積
1	消防局・草加消防署	昭和43年	-1	1463.61m <sup>2</sup>
2	草加消防署西分署	平成23年	30	1831.34m <sup>2</sup>
3	草加消防署青柳分署	昭和54年	10	2235.76m <sup>2</sup>
4	草加消防署青柳分署化学車庫	平成17年	24	-
5	草加消防署北分署	平成11年	30	1613.55m <sup>2</sup>
6	草加消防署谷塚ステーション	平成24年	31	794.19m <sup>2</sup>
7	八潮消防署(指令センター含む)	平成21年	40	6228.61m <sup>2</sup>
8	八潮消防署訓練塔A棟	平成21年	21	-
9	八潮消防署訓練塔B棟	平成21年	21	-
10	八潮消防署車両車庫	平成21年	21	-
11	草加市消防団第1分団第1部機械器具置場	昭和48年	-15	102.47m <sup>2</sup>
12	草加市消防団第1分団第2部機械器具置場	平成24年	24	96.98m <sup>2</sup>
13	草加市消防団第1分団第3部機械器具置場	平成16年	16	413.00m <sup>2</sup>
14	草加市消防団第2分団第1部機械器具置場	平成8年	8	66.27m <sup>2</sup>
15	草加市消防団第2分団第2部機械器具置場	平成29年	29	70.00m <sup>2</sup>
16	草加市消防団第2分団第3部機械器具置場	平成5年	5	75.05m <sup>2</sup>
17	草加市消防団第3分団第1部機械器具置場	昭和47年	-16	21.00m <sup>2</sup>
18	草加市消防団第3分団第2部機械器具置場	平成9年	3	186.98m <sup>2</sup>
19	草加市消防団第3分団第3部機械器具置場※	昭和52年	-11	119.11m <sup>2</sup>
20	草加市消防団第4分団第1部機械器具置場	昭和61年	-2	125.61m <sup>2</sup>
21	草加市消防団第4分団第2部機械器具置場※	昭和59年	-4	83.06m <sup>2</sup>
22	草加市消防団第4分団第3部機械器具置場	平成12年	6	71.92m <sup>2</sup>
23	草加市消防団第5分団第1部消防ステーション※	平成19年	19	144.00m <sup>2</sup>
24	草加市消防団第5分団第2部機械器具置場※	平成14年	8	133.02m <sup>2</sup>
25	八潮市消防団第1分団第1部機械器具置場※	平成16年	10	74.00m <sup>2</sup>
26	八潮市消防団第1分団第2部機械器具置場	昭和62年	-1	95.75m <sup>2</sup>
27	八潮市消防団第1分団第3部機械器具置場※	平成4年	4	74.00m <sup>2</sup>
28	八潮市消防団第1分団第4部機械器具置場	昭和54年	-15	80.11m <sup>2</sup>
29	八潮市消防団第1分団第5部機械器具置場※	平成6年	6	68.00m <sup>2</sup>
30	八潮市消防団第1分団第6部機械器具置場	昭和55年	-14	104.00m <sup>2</sup>
31	八潮市消防団第2分団第1部機械器具置場	平成5年	5	104.00m <sup>2</sup>
32	八潮市消防団第2分団第2部機械器具置場	昭和57年	-12	113.75m <sup>2</sup>
33	八潮市消防団第2分団第3部機械器具置場	平成8年	8	101.88m <sup>2</sup>
34	八潮市消防団第2分団第4部機械器具置場※	昭和62年	-1	165.00m <sup>2</sup>
35	八潮市消防団第2分団第5部機械器具置場(詰所)※	平成元年	-13	130.79m <sup>2</sup>
36	八潮市消防団第2分団第5部機械器具置場(車庫)※	昭和50年	-13	-
37	八潮市消防団第2分団第6部機械器具置場	昭和57年	-6	94.24m <sup>2</sup>
38	八潮市消防団第2分団第7部機械器具置場	平成19年	13	100.30m <sup>2</sup>
39	八潮市消防団第3分団第1部機械器具置場	昭和56年	-13	160.17m <sup>2</sup>
40	八潮市消防団第3分団第2部機械器具置場	昭和55年	-14	54.83m <sup>2</sup>
41	八潮市消防団第3分団第3部機械器具置場	昭和60年	-3	58.00m <sup>2</sup>
42	八潮市消防団第3分団第4部機械器具置場※	昭和56年	-13	56.70m <sup>2</sup>
43	八潮市消防団第3分団第5部機械器具置場(詰所)	平成3年	-11	136.00m <sup>2</sup>
44	八潮市消防団第3分団第5部機械器具置場(車庫)	昭和52年	-17	-
45	八潮市消防団第3分団第6部機械器具置場	昭和63年	0	39.29m <sup>2</sup>

※借地等

番号	建築面積	建物 総延床面積	大規模改修 の実施	耐震改修の 実施	劣化診断の 実施	アスベスト 調査の実施	耐震基準	職員数
1	410.91㎡	1,266.15㎡	未実施	実施済	未実施	対応不要	旧耐震	106
2	485.79㎡	1,071.76㎡	不要	不要	未実施	調査不要	新耐震	37
3	462.15㎡	729.90㎡	未実施	未実施	未実施	対応済	旧耐震	33
4	110.00㎡	110.00㎡	不要	不要	未実施	調査不要	新耐震	-
5	497.04㎡	909.49㎡	不要	不要	未実施	対応不要	新耐震	31
6	175.24㎡	292.42㎡	不要	不要	未実施	調査不要	新耐震	23
7	1,787.78㎡	3,787.86㎡	不要	不要	未実施	調査不要	新耐震	107
8	60.00㎡	274.50㎡	不要	不要	未実施	調査不要	新耐震	-
9	75.00㎡	120.00㎡	不要	不要	未実施	調査不要	新耐震	-
10	187.00㎡	187.00㎡	不要	不要	未実施	調査不要	新耐震	-
11	26.04㎡	52.08㎡	未実施	未実施	未実施	対応不要	旧耐震	10
12	34.01㎡	69.29㎡	不要	不要	未実施	調査不要	新耐震	15
13	33.28㎡	66.56㎡	未実施	不要	未実施	対応不要	新耐震	9
14	33.57㎡	67.14㎡	未実施	不要	未実施	対応不要	新耐震	16
15	40.00㎡	80.00㎡	不要	不要	未実施	調査不要	新耐震	16
16	39.65㎡	59.47㎡	未実施	不要	未実施	対応不要	新耐震	14
17	20.35㎡	20.35㎡	未実施	未実施	未実施	対応不要	旧耐震	12
18	33.28㎡	66.56㎡	未実施	不要	未実施	対応不要	新耐震	15
19	30.84㎡	61.67㎡	未実施	未実施	未実施	対応不要	旧耐震	12
20	29.38㎡	58.76㎡	未実施	不要	未実施	対応不要	新耐震	22
21	28.35㎡	56.70㎡	未実施	不要	未実施	対応不要	新耐震	10
22	33.28㎡	66.56㎡	未実施	不要	未実施	対応不要	新耐震	8
23	69.90㎡	69.90㎡	不要	不要	未実施	調査不要	新耐震	20
24	67.49㎡	67.49㎡	未実施	不要	未実施	対応不要	新耐震	13
25	32.83㎡	32.83㎡	未実施	不要	未実施	対応不要	新耐震	12
26	25.87㎡	51.74㎡	未実施	不要	未実施	対応不要	新耐震	11
27	18.70㎡	37.40㎡	未実施	不要	未実施	対応不要	新耐震	9
28	33.80㎡	33.80㎡	実施済	未実施	未実施	対応不要	旧耐震	11
29	18.70㎡	37.40㎡	未実施	不要	未実施	対応不要	新耐震	12
30	34.46㎡	34.46㎡	実施済	未実施	未実施	対応不要	旧耐震	8
31	25.86㎡	51.72㎡	未実施	不要	未実施	対応不要	新耐震	11
32	39.39㎡	39.39㎡	実施済	不要	未実施	対応不要	新耐震	12
33	25.52㎡	51.04㎡	未実施	不要	未実施	対応不要	新耐震	7
34	25.86㎡	51.72㎡	実施済	不要	未実施	対応不要	新耐震	12
35	23.71㎡	23.71㎡	未実施	不要	未実施	対応不要	新耐震	10
36	17.06㎡	17.06㎡	未実施	未実施	未実施	対応不要	旧耐震	-
37	25.74㎡	51.48㎡	未実施	不要	未実施	対応不要	新耐震	12
38	24.70㎡	24.70㎡	不要	不要	未実施	調査不要	新耐震	12
39	34.10㎡	34.10㎡	実施済	未実施	未実施	対応不要	旧耐震	11
40	33.47㎡	33.47㎡	実施済	未実施	未実施	対応不要	旧耐震	11
41	25.87㎡	51.74㎡	未実施	不要	未実施	対応不要	新耐震	12
42	37.43㎡	37.43㎡	実施済	未実施	未実施	対応不要	旧耐震	7
43	29.81㎡	29.81㎡	未実施	不要	未実施	対応不要	新耐震	7
44	18.63㎡	18.63㎡	未実施	未実施	未実施	対応不要	旧耐震	-
45	18.02㎡	36.04㎡	未実施	不要	未実施	対応不要	新耐震	11

平成 31 年 4 月 1 日時点



## 6 施設別の現況

### 6-1 竣工年

本組合の施設を竣工年順に整理すると以下ようになります。45 施設の内、12 施設は旧耐震基準が適用される昭和 56 年以前に建築されています。

図表 43 竣工年

竣工年	施設名称
昭和43年(1968)年	消防局・草加消防署
昭和47年(1972)年	草加市消防団第3分団第1部機械器具置場
昭和48年(1973)年	草加市消防団第1分団第1部機械器具置場
昭和50年(1975)年	八潮市消防団第2分団第5部機械器具置場(車庫)
昭和52年(1977)年	草加市消防団第3分団第3部機械器具置場
昭和52年(1977)年	八潮市消防団第3分団第5部機械器具置場(車庫)
昭和54年(1979)年	草加消防署青柳分署
昭和54年(1979)年	八潮市消防団第1分団第4部機械器具置場
昭和55年(1980)年	八潮市消防団第1分団第6部機械器具置場
昭和55年(1980)年	八潮市消防団第3分団第2部機械器具置場
昭和56年(1981)年	八潮市消防団第3分団第1部機械器具置場
昭和56年(1981)年	八潮市消防団第3分団第4部機械器具置場
昭和57年(1982)年	八潮市消防団第2分団第2部機械器具置場
昭和57年(1982)年	八潮市消防団第2分団第6部機械器具置場
昭和59年(1984)年	草加市消防団第4分団第2部機械器具置場
昭和60年(1985)年	八潮市消防団第3分団第3部機械器具置場
昭和61年(1986)年	草加市消防団第4分団第1部機械器具置場
昭和62年(1987)年	八潮市消防団第1分団第2部機械器具置場
昭和62年(1987)年	八潮市消防団第2分団第4部機械器具置場
昭和63年(1988)年	八潮市消防団第3分団第6部機械器具置場
平成元年(1989)年	八潮市消防団第2分団第5部機械器具置場(詰所)
平成3年(1991)年	八潮市消防団第3分団第5部機械器具置場(詰所)
平成4年(1992)年	八潮市消防団第1分団第3部機械器具置場
平成5年(1993)年	草加市消防団第2分団第3部機械器具置場
平成5年(1993)年	八潮市消防団第2分団第1部機械器具置場
平成6年(1994)年	八潮市消防団第1分団第5部機械器具置場
平成8年(1996)年	草加市消防団第2分団第1部機械器具置場
平成8年(1996)年	八潮市消防団第2分団第3部機械器具置場
平成9年(1997)年	草加市消防団第3分団第2部機械器具置場
平成11年(1999)年	草加消防署北分署
平成12年(2000)年	草加市消防団第4分団第3部機械器具置場
平成14年(2002)年	草加市消防団第5分団第2部機械器具置場
平成16年(2004)年	草加市消防団第1分団第3部機械器具置場
平成16年(2004)年	八潮市消防団第1分団第1部機械器具置場
平成17年(2005)年	草加消防署青柳分署化学車庫
平成19年(2007)年	草加市消防団第5分団第1部消防ステーション
平成19年(2007)年	八潮市消防団第2分団第7部機械器具置場
平成21年(2009)年	八潮消防署(指令センター含む)
平成21年(2009)年	八潮消防署訓練塔A棟
平成21年(2009)年	八潮消防署訓練塔B棟
平成21年(2009)年	八潮消防署車両車庫
平成23年(2011)年	草加消防署西分署
平成24年(2012)年	草加消防署谷塚ステーション
平成24年(2012)年	草加市消防団第1分団第2部機械器具置場
平成29年(2017)年	草加市消防団第2分団第2部機械器具置場

昭和56年5月31日以前  
旧耐震基準

昭和56年6月1日以降  
新耐震基準

## 6-2 耐用年数

財務省の減価償却資産の耐用年数に関する省令では、建物の減価償却の算定の目安となる基準として次のように定められています。建物の構造と用途により細分化すると、鉄骨鉄筋コンクリート造 50 年（事務所）、鉄筋コンクリート造 50 年（事務所）又は 38 年（車庫）、コンクリートブロック造 34 年（車庫）、鉄骨造 38 年（事務所）又は 31 年（車庫）、軽量鉄骨造 25 年（車庫）、木造は 17 年（車庫）としています。

この算定に基づくと 45 施設の内、20 施設が減価償却資産としての耐用年数を迎えています。耐用年数を超過する施設の内訳として、常備消防施設が 1 施設、非常備消防施設が 19 施設となっています。

図表 44 耐用年数（常備消防施設）

番号	施設名称	構造	用途	竣工年	築年数	耐用年数	
						50年	到達までの年数
1	消防局・草加消防署	鉄筋コンクリート造	庁舎	昭和43年 (1968)	51	50年	-1年
2	草加消防署西分署	鉄骨造	庁舎	平成23年 (2011)	8	38年	30年
3	草加消防署青柳分署	鉄筋コンクリート造	庁舎	昭和54年 (1979)	40	50年	10年
4	草加消防署青柳分署化学車庫	鉄筋コンクリート造	車庫	平成17年 (2005)	14	38年	24年
5	草加消防署北分署	鉄筋コンクリート 一部鉄骨造	庁舎	平成11年 (1999)	20	50年	30年
6	草加消防署谷塚ステーション	鉄骨造	庁舎	平成24年 (2012)	7	38年	31年
7	八潮消防署(指令センター含む)	鉄筋コンクリート 一部鉄骨造	庁舎	平成21年 (2009)	10	50年	40年
8	八潮消防署訓練塔A棟	鉄骨造	教習所・養成 所・研修所	平成21年 (2009)	10	31年	21年
9	八潮消防署訓練塔B棟	鉄骨造	教習所・養成 所・研修所	平成21年 (2009)	10	31年	21年
10	八潮消防署車両車庫	鉄骨造	車庫	平成21年 (2009)	10	31年	21年

用途：固定資産台帳より抜粋

築年数は平成 31 年起点

図表 45 耐用年数（非常備消防施設）

番号	施設名称	構造	用途	竣工年	築年数	耐用年数	
							到達までの年数
11	草加市消防団第1分団第1部機械器具置場	鉄骨造	車庫	昭和48年(1973)	46	31年	-15年
12	草加市消防団第1分団第2部機械器具置場	鉄骨造	車庫	平成24年(2012)	7	31年	24年
13	草加市消防団第1分団第3部機械器具置場	鉄骨造	車庫	平成16年(2004)	15	31年	16年
14	草加市消防団第2分団第1部機械器具置場	鉄骨造	車庫	平成8年(1996)	23	31年	8年
15	草加市消防団第2分団第2部機械器具置場	鉄骨造	車庫	平成29年(2017)	2	31年	29年
16	草加市消防団第2分団第3部機械器具置場	鉄骨造	車庫	平成5年(1993)	26	31年	5年
17	草加市消防団第3分団第1部機械器具置場	鉄骨造	車庫	昭和47年(1972)	47	31年	-16年
18	草加市消防団第3分団第2部機械器具置場	軽量鉄骨造	車庫	平成9年(1997)	22	25年	3年
19	草加市消防団第3分団第3部機械器具置場	鉄骨造	車庫	昭和52年(1977)	42	31年	-11年
20	草加市消防団第4分団第1部機械器具置場	鉄骨造	車庫	昭和61年(1986)	33	31年	-2年
21	草加市消防団第4分団第2部機械器具置場	鉄骨造	車庫	昭和59年(1984)	35	31年	-4年
22	草加市消防団第4分団第3部機械器具置場	軽量鉄骨造	車庫	平成12年(2000)	19	25年	6年
23	草加市消防団第5分団第1部消防ステーション	鉄骨造	車庫	平成19年(2007)	12	31年	19年
24	草加市消防団第5分団第2部機械器具置場	軽量鉄骨造	車庫	平成14年(2002)	17	25年	8年
25	八潮市消防団第1分団第1部機械器具置場	軽量鉄骨造	車庫	平成16年(2004)	15	25年	10年
26	八潮市消防団第1分団第2部機械器具置場	鉄骨造	車庫	昭和62年(1987)	32	31年	-1年
27	八潮市消防団第1分団第3部機械器具置場	鉄骨造	車庫	平成4年(1992)	27	31年	4年
28	八潮市消防団第1分団第4部機械器具置場	軽量鉄骨造	車庫	昭和54年(1979)	40	25年	-15年
29	八潮市消防団第1分団第5部機械器具置場	鉄骨造	車庫	平成6年(1994)	25	31年	6年
30	八潮市消防団第1分団第6部機械器具置場	軽量鉄骨造	車庫	昭和55年(1980)	39	25年	-14年
31	八潮市消防団第2分団第1部機械器具置場	鉄骨造	車庫	平成5年(1993)	26	31年	5年
32	八潮市消防団第2分団第2部機械器具置場	軽量鉄骨造	車庫	昭和57年(1982)	37	25年	-12年
33	八潮市消防団第2分団第3部機械器具置場	鉄骨造	車庫	平成8年(1996)	23	31年	8年
34	八潮市消防団第2分団第4部機械器具置場	鉄骨造	車庫	昭和62年(1987)	32	31年	-1年
35	八潮市消防団第2分団第5部機械器具置場(詰所)	木造	車庫	平成元年(1989)	30	17年	-13年
36	八潮市消防団第2分団第5部機械器具置場(車庫)	鉄骨造	車庫	昭和50年(1975)	44	31年	-13年
37	八潮市消防団第2分団第6部機械器具置場	鉄骨造	車庫	昭和57年(1982)	37	31年	-6年
38	八潮市消防団第2分団第7部機械器具置場	軽量鉄骨造	車庫	平成19年(2007)	12	25年	13年
39	八潮市消防団第3分団第1部機械器具置場	軽量鉄骨造	車庫	昭和56年(1981)	38	25年	-13年
40	八潮市消防団第3分団第2部機械器具置場	軽量鉄骨造	車庫	昭和55年(1980)	39	25年	-14年
41	八潮市消防団第3分団第3部機械器具置場	鉄骨造	車庫	昭和60年(1985)	34	31年	-3年
42	八潮市消防団第3分団第4部機械器具置場	軽量鉄骨造	車庫	昭和56年(1981)	38	25年	-13年
43	八潮市消防団第3分団第5部機械器具置場(詰所)	木造	車庫	平成3年(1991)	28	17年	-11年
44	八潮市消防団第3分団第5部機械器具置場(車庫)	軽量鉄骨造	車庫	昭和52年(1977)	42	25年	-17年
45	八潮市消防団第3分団第6部機械器具置場	鉄骨造	車庫	昭和63年(1988)	31	31年	0年

用途：固定資産台帳より抜粋

築年数は平成31年起点

## 6-3 面積

### ① 常備消防施設

消防署所等の常備消防施設の総敷地面積は 14,167.06 m<sup>2</sup>、建築面積は 4,250.91 m<sup>2</sup>、延床面積は 8,749.08 m<sup>2</sup>となっています。

各消防署所において、執務空間の狭隘化による業務効率の低下を招いています。なかでも、草加八潮消防局は草加消防署と同じ建物を使用していますが、消防局機能を全て収容するスペースがなく、一部機能を八潮消防署へ移管しています。

消防局機能が分散されていることにより、災害事案が大規模・複雑化した場合の指令業務など、危機管理上における支障をきたしています。また、業務が関連している予防課と警防課が分散していることが関係事業者の負担となっていることや、来庁者の待合スペースや個別の相談窓口が確保できないため、プライバシー保護等の観点から住民サービスの低下を招いています。

図表 46 面積（常備消防施設）

番号	施設名称	敷地面積	建築面積	延床面積
1	消防局・草加消防署	1,463.61m <sup>2</sup>	410.91m <sup>2</sup>	1,266.15m <sup>2</sup>
2	草加消防署西分署	1,831.34m <sup>2</sup>	485.79m <sup>2</sup>	1,071.76m <sup>2</sup>
3	草加消防署青柳分署	2,235.76m <sup>2</sup>	462.15m <sup>2</sup>	729.90m <sup>2</sup>
4	草加消防署青柳分署化学車庫	-	110.00m <sup>2</sup>	110.00m <sup>2</sup>
5	草加消防署北分署	1,613.55m <sup>2</sup>	497.04m <sup>2</sup>	909.49m <sup>2</sup>
6	草加消防署谷塚ステーション	794.19m <sup>2</sup>	175.24m <sup>2</sup>	292.42m <sup>2</sup>
7	八潮消防署（指令センター含む）	6,228.61m <sup>2</sup>	1,787.78m <sup>2</sup>	3,787.86m <sup>2</sup>
8	八潮消防署訓練塔A棟	-	60.00m <sup>2</sup>	274.50m <sup>2</sup>
9	八潮消防署訓練塔B棟	-	75.00m <sup>2</sup>	120.00m <sup>2</sup>
10	八潮消防署車両車庫	-	187.00m <sup>2</sup>	187.00m <sup>2</sup>
	合計	14,167.06m <sup>2</sup>	4,250.91m <sup>2</sup>	8,749.08m <sup>2</sup>

平成 31 年 4 月 1 日時点

## ② 非常備消防施設

消防団の活動拠点となる機械器具置場等の非常備消防施設の総敷地面積は 3,519.28 ㎡、建築面積は 1,088.95 ㎡、延床面積は 1,642.20 ㎡となっています。内訳として、草加市の非常備消防施設の敷地面積は 1,708.47 ㎡、建築面積は 519.42 ㎡、延床面積は 862.53 ㎡、八潮市の非常備消防施設の敷地面積 1,810.81 ㎡、建築面積 569.53 ㎡、延床面積 779.67 ㎡となっています。

図表 47 面積（非常備消防施設）

番号	施設名称	敷地面積	建築面積	延床面積
11	草加市消防団第1分団第1部機械器具置場	102.47㎡	26.04㎡	52.08㎡
12	草加市消防団第1分団第2部機械器具置場	96.98㎡	34.01㎡	69.29㎡
13	草加市消防団第1分団第3部機械器具置場	413.00㎡	33.28㎡	66.56㎡
14	草加市消防団第2分団第1部機械器具置場	66.27㎡	33.57㎡	67.14㎡
15	草加市消防団第2分団第2部機械器具置場	70.00㎡	40.00㎡	80.00㎡
16	草加市消防団第2分団第3部機械器具置場	75.05㎡	39.65㎡	59.47㎡
17	草加市消防団第3分団第1部機械器具置場	21.00㎡	20.35㎡	20.35㎡
18	草加市消防団第3分団第2部機械器具置場	186.98㎡	33.28㎡	66.56㎡
19	草加市消防団第3分団第3部機械器具置場※	119.11㎡	30.84㎡	61.67㎡
20	草加市消防団第4分団第1部機械器具置場	125.61㎡	29.38㎡	58.76㎡
21	草加市消防団第4分団第2部機械器具置場※	83.06㎡	28.35㎡	56.70㎡
22	草加市消防団第4分団第3部機械器具置場	71.92㎡	33.28㎡	66.56㎡
23	草加市消防団第5分団第1部消防ステーション※	144.00㎡	69.90㎡	69.90㎡
24	草加市消防団第5分団第2部機械器具置場※	133.02㎡	67.49㎡	67.49㎡
25	八潮市消防団第1分団第1部機械器具置場※	74.00㎡	32.83㎡	32.83㎡
26	八潮市消防団第1分団第2部機械器具置場	95.75㎡	25.87㎡	51.74㎡
27	八潮市消防団第1分団第3部機械器具置場※	74.00㎡	18.70㎡	37.40㎡
28	八潮市消防団第1分団第4部機械器具置場	80.11㎡	33.80㎡	33.80㎡
29	八潮市消防団第1分団第5部機械器具置場※	68.00㎡	18.70㎡	37.40㎡
30	八潮市消防団第1分団第6部機械器具置場	104.00㎡	34.46㎡	34.46㎡
31	八潮市消防団第2分団第1部機械器具置場	104.00㎡	25.86㎡	51.72㎡
32	八潮市消防団第2分団第2部機械器具置場	113.75㎡	39.39㎡	39.39㎡
33	八潮市消防団第2分団第3部機械器具置場	101.88㎡	25.52㎡	51.04㎡
34	八潮市消防団第2分団第4部機械器具置場※	165.00㎡	25.86㎡	51.72㎡
35	八潮市消防団第2分団第5部機械器具置場（詰所）※	130.79㎡	23.71㎡	23.71㎡
36	八潮市消防団第2分団第5部機械器具置場（車庫）※	—	17.06㎡	17.06㎡
37	八潮市消防団第2分団第6部機械器具置場	94.24㎡	25.74㎡	51.48㎡
38	八潮市消防団第2分団第7部機械器具置場	100.30㎡	24.70㎡	24.70㎡
39	八潮市消防団第3分団第1部機械器具置場	160.17㎡	34.10㎡	34.10㎡
40	八潮市消防団第3分団第2部機械器具置場	54.83㎡	33.47㎡	33.47㎡
41	八潮市消防団第3分団第3部機械器具置場	58.00㎡	25.87㎡	51.74㎡
42	八潮市消防団第3分団第4部機械器具置場※	56.70㎡	37.43㎡	37.43㎡
43	八潮市消防団第3分団第5部機械器具置場（詰所）	136.00㎡	29.81㎡	29.81㎡
44	八潮市消防団第3分団第5部機械器具置場（車庫）	—	18.63㎡	18.63㎡
45	八潮市消防団第3分団第6部機械器具置場	39.29㎡	18.02㎡	36.04㎡
	草加市内の消防団小計	1,708.47㎡	519.42㎡	862.53㎡
	八潮市内の消防団小計	1,810.81㎡	569.53㎡	779.67㎡
	合計	3,519.28㎡	1,088.95㎡	1,642.20㎡

※借地等

平成 31 年 4 月 1 日時点

## 6-4 大規模改修の実施状況

### ① 常備消防施設

大規模改修は、施設の耐久性に関わる工事です。大規模改修は、改修時期を迎えていない施設を除き未実施です。

図表 48 大規模改修実施状況（常備消防施設）

番号	施設名称	大規模改修の実施
1	消防局・草加消防署	未実施
2	草加消防署西分署	不要
3	草加消防署青柳分署	未実施
4	草加消防署青柳分署化学車庫	不要
5	草加消防署北分署	不要
6	草加消防署谷塚ステーション	不要
7	八潮消防署(指令センター含む)	不要
8	八潮消防署訓練塔A棟	不要
9	八潮消防署訓練塔B棟	不要
10	八潮消防署車両車庫	不要

状況	合計数
実施済	0
未実施	2
不要	8

平成 31 年 4 月 1 日時点

② 非常備消防施設

大規模改修は、八潮市消防団の7施設と改修時期を迎えていない施設を除き未実施です。

図表 49 大規模改修実施状況（非常備消防施設）

番号	施設名称	大規模改修の実施
11	草加市消防団第1分団第1部機械器具置場	未実施
12	草加市消防団第1分団第2部機械器具置場	不要
13	草加市消防団第1分団第3部機械器具置場	未実施
14	草加市消防団第2分団第1部機械器具置場	未実施
15	草加市消防団第2分団第2部機械器具置場	不要
16	草加市消防団第2分団第3部機械器具置場	未実施
17	草加市消防団第3分団第1部機械器具置場	未実施
18	草加市消防団第3分団第2部機械器具置場	未実施
19	草加市消防団第3分団第3部機械器具置場	未実施
20	草加市消防団第4分団第1部機械器具置場	未実施
21	草加市消防団第4分団第2部機械器具置場	未実施
22	草加市消防団第4分団第3部機械器具置場	未実施
23	草加市消防団第5分団第1部消防ステーション	不要
24	草加市消防団第5分団第2部機械器具置場	未実施
25	八潮市消防団第1分団第1部機械器具置場	未実施
26	八潮市消防団第1分団第2部機械器具置場	未実施
27	八潮市消防団第1分団第3部機械器具置場	未実施
28	八潮市消防団第1分団第4部機械器具置場	実施済
29	八潮市消防団第1分団第5部機械器具置場	未実施
30	八潮市消防団第1分団第6部機械器具置場	実施済
31	八潮市消防団第2分団第1部機械器具置場	未実施
32	八潮市消防団第2分団第2部機械器具置場	実施済
33	八潮市消防団第2分団第3部機械器具置場	未実施
34	八潮市消防団第2分団第4部機械器具置場	実施済
35	八潮市消防団第2分団第5部機械器具置場(詰所)	未実施
36	八潮市消防団第2分団第5部機械器具置場(車庫)	未実施
37	八潮市消防団第2分団第6部機械器具置場	未実施
38	八潮市消防団第2分団第7部機械器具置場	不要
39	八潮市消防団第3分団第1部機械器具置場	実施済
40	八潮市消防団第3分団第2部機械器具置場	実施済
41	八潮市消防団第3分団第3部機械器具置場	未実施
42	八潮市消防団第3分団第4部機械器具置場	実施済
43	八潮市消防団第3分団第5部機械器具置場(詰所)	未実施
44	八潮市消防団第3分団第5部機械器具置場(車庫)	未実施
45	八潮市消防団第3分団第6部機械器具置場	未実施

状況	合計数
実施済	7
未実施	24
不要	4

平成31年4月1日時点

## 6-5 耐震改修の実施状況

### ① 常備消防施設

耐震改修は、旧耐震建物で耐震性に問題があると思われる建築物に対して行う補強工事です。耐震改修を実施済みの施設が1施設、未実施の施設が1施設、不要の施設が8施設です。

図表 50 耐震改修実施状況（常備消防施設）

番号	施設名称	耐震改修の実施
1	消防局・草加消防署	実施済
2	草加消防署西分署	不要
3	草加消防署青柳分署	未実施
4	草加消防署青柳分署化学車庫	不要
5	草加消防署北分署	不要
6	草加消防署谷塚ステーション	不要
7	八潮消防署(指令センター含む)	不要
8	八潮消防署訓練塔A棟	不要
9	八潮消防署訓練塔B棟	不要
10	八潮消防署車両車庫	不要

状況	合計数
実施済	1
未実施	1
不要	8

平成31年4月1日時点

## ② 非常備消防施設

耐震改修を実施済みの施設はなく、未実施の施設が 10 施設、不要の施設が 25 施設です。

図表 51 耐震改修実施状況（非常備消防施設）

番号	施設名称	耐震改修の実施
11	草加市消防団第1分団第1部機械器具置場	未実施
12	草加市消防団第1分団第2部機械器具置場	不要
13	草加市消防団第1分団第3部機械器具置場	不要
14	草加市消防団第2分団第1部機械器具置場	不要
15	草加市消防団第2分団第2部機械器具置場	不要
16	草加市消防団第2分団第3部機械器具置場	不要
17	草加市消防団第3分団第1部機械器具置場	未実施
18	草加市消防団第3分団第2部機械器具置場	不要
19	草加市消防団第3分団第3部機械器具置場	未実施
20	草加市消防団第4分団第1部機械器具置場	不要
21	草加市消防団第4分団第2部機械器具置場	不要
22	草加市消防団第4分団第3部機械器具置場	不要
23	草加市消防団第5分団第1部消防ステーション	不要
24	草加市消防団第5分団第2部機械器具置場	不要
25	八潮市消防団第1分団第1部機械器具置場	不要
26	八潮市消防団第1分団第2部機械器具置場	不要
27	八潮市消防団第1分団第3部機械器具置場	不要
28	八潮市消防団第1分団第4部機械器具置場	未実施
29	八潮市消防団第1分団第5部機械器具置場	不要
30	八潮市消防団第1分団第6部機械器具置場	未実施
31	八潮市消防団第2分団第1部機械器具置場	不要
32	八潮市消防団第2分団第2部機械器具置場	不要
33	八潮市消防団第2分団第3部機械器具置場	不要
34	八潮市消防団第2分団第4部機械器具置場	不要
35	八潮市消防団第2分団第5部機械器具置場(詰所)	不要
36	八潮市消防団第2分団第5部機械器具置場(車庫)	未実施
37	八潮市消防団第2分団第6部機械器具置場	不要
38	八潮市消防団第2分団第7部機械器具置場	不要
39	八潮市消防団第3分団第1部機械器具置場	未実施
40	八潮市消防団第3分団第2部機械器具置場	未実施
41	八潮市消防団第3分団第3部機械器具置場	不要
42	八潮市消防団第3分団第4部機械器具置場	未実施
43	八潮市消防団第3分団第5部機械器具置場(詰所)	不要
44	八潮市消防団第3分団第5部機械器具置場(車庫)	未実施
45	八潮市消防団第3分団第6部機械器具置場	不要

状況	合計数
実施済	0
未実施	10
不要	25

平成 31 年 4 月 1 日時点

## 6-6 劣化診断の実施状況

### ① 常備消防施設

劣化診断は、建築物の躯体や設備の劣化状況に関する調査・診断で、大規模改修が想定される建物について、事前に劣化状況を把握するために行います。劣化診断は、全ての施設で未実施です。

図表 52 劣化診断実施状況（常備消防施設）

番号	施設名称	劣化診断の実施
1	消防局・草加消防署	未実施
2	草加消防署西分署	未実施
3	草加消防署青柳分署	未実施
4	草加消防署青柳分署化学車庫	未実施
5	草加消防署北分署	未実施
6	草加消防署谷塚ステーション	未実施
7	八潮消防署(指令センター含む)	未実施
8	八潮消防署訓練塔A棟	未実施
9	八潮消防署訓練塔B棟	未実施
10	八潮消防署車両車庫	未実施

状況	合計数
実施済	0
未実施	10

平成31年4月1日時点

② 非常備消防施設

劣化診断は、全ての施設で未実施です。

図表 53 劣化診断実施状況（非常備消防施設）

番号	施設名称	劣化診断の実施
11	草加市消防団第1分団第1部機械器具置場	未実施
12	草加市消防団第1分団第2部機械器具置場	未実施
13	草加市消防団第1分団第3部機械器具置場	未実施
14	草加市消防団第2分団第1部機械器具置場	未実施
15	草加市消防団第2分団第2部機械器具置場	未実施
16	草加市消防団第2分団第3部機械器具置場	未実施
17	草加市消防団第3分団第1部機械器具置場	未実施
18	草加市消防団第3分団第2部機械器具置場	未実施
19	草加市消防団第3分団第3部機械器具置場	未実施
20	草加市消防団第4分団第1部機械器具置場	未実施
21	草加市消防団第4分団第2部機械器具置場	未実施
22	草加市消防団第4分団第3部機械器具置場	未実施
23	草加市消防団第5分団第1部消防ステーション	未実施
24	草加市消防団第5分団第2部機械器具置場	未実施
25	八潮市消防団第1分団第1部機械器具置場	未実施
26	八潮市消防団第1分団第2部機械器具置場	未実施
27	八潮市消防団第1分団第3部機械器具置場	未実施
28	八潮市消防団第1分団第4部機械器具置場	未実施
29	八潮市消防団第1分団第5部機械器具置場	未実施
30	八潮市消防団第1分団第6部機械器具置場	未実施
31	八潮市消防団第2分団第1部機械器具置場	未実施
32	八潮市消防団第2分団第2部機械器具置場	未実施
33	八潮市消防団第2分団第3部機械器具置場	未実施
34	八潮市消防団第2分団第4部機械器具置場	未実施
35	八潮市消防団第2分団第5部機械器具置場(詰所)	未実施
36	八潮市消防団第2分団第5部機械器具置場(車庫)	未実施
37	八潮市消防団第2分団第6部機械器具置場	未実施
38	八潮市消防団第2分団第7部機械器具置場	未実施
39	八潮市消防団第3分団第1部機械器具置場	未実施
40	八潮市消防団第3分団第2部機械器具置場	未実施
41	八潮市消防団第3分団第3部機械器具置場	未実施
42	八潮市消防団第3分団第4部機械器具置場	未実施
43	八潮市消防団第3分団第5部機械器具置場(詰所)	未実施
44	八潮市消防団第3分団第5部機械器具置場(車庫)	未実施
45	八潮市消防団第3分団第6部機械器具置場	未実施

状況	合計数
実施済	0
未実施	35

平成 31 年 4 月 1 日時点

## 6-7 アスベストへの対応状況

### ① 常備消防施設

建築材料としてのアスベストの使用規制を受け、建築物におけるアスベストの使用の有無に関する調査とアスベストの使用が認められた場合の飛散防止のための対策工事が求められています。アスベスト調査を実施し、対応が必要な青柳分署については適正に対策を講じています。

図表 54 アスベストへの対応状況（常備消防施設）

番号	施設名称	アスベストへの対応状況
1	消防局・草加消防署	対応不要
2	草加消防署西分署	調査不要
3	草加消防署青柳分署	対応済
4	草加消防署青柳分署化学車庫	調査不要
5	草加消防署北分署	対応不要
6	草加消防署谷塚ステーション	調査不要
7	八潮消防署(指令センター含む)	調査不要
8	八潮消防署訓練塔A棟	調査不要
9	八潮消防署訓練塔B棟	調査不要
10	八潮消防署車両車庫	調査不要

状況	合計数
対応済	1
対応不要	2
調査不要	7

注：調査不要：法令で含有量 0.1%超の石綿含有物の製造・使用を全面禁止された平成 18 年以降竣工の建物

平成 31 年 4 月 1 日時点

## ② 非常備消防施設

アスベスト調査を実施し、非常備消防施設については対応不要又は調査不要となっています。

図表 55 アスベストへの対応状況（非常備消防施設）

番号	施設名称	アスベストへの対応状況
11	草加市消防団第1分団第1部機械器具置場	対応不要
12	草加市消防団第1分団第2部機械器具置場	調査不要
13	草加市消防団第1分団第3部機械器具置場	対応不要
14	草加市消防団第2分団第1部機械器具置場	対応不要
15	草加市消防団第2分団第2部機械器具置場	調査不要
16	草加市消防団第2分団第3部機械器具置場	対応不要
17	草加市消防団第3分団第1部機械器具置場	対応不要
18	草加市消防団第3分団第2部機械器具置場	対応不要
19	草加市消防団第3分団第3部機械器具置場	対応不要
20	草加市消防団第4分団第1部機械器具置場	対応不要
21	草加市消防団第4分団第2部機械器具置場	対応不要
22	草加市消防団第4分団第3部機械器具置場	対応不要
23	草加市消防団第5分団第1部消防ステーション	調査不要
24	草加市消防団第5分団第2部機械器具置場	対応不要
25	八潮市消防団第1分団第1部機械器具置場	対応不要
26	八潮市消防団第1分団第2部機械器具置場	対応不要
27	八潮市消防団第1分団第3部機械器具置場	対応不要
28	八潮市消防団第1分団第4部機械器具置場	対応不要
29	八潮市消防団第1分団第5部機械器具置場	対応不要
30	八潮市消防団第1分団第6部機械器具置場	対応不要
31	八潮市消防団第2分団第1部機械器具置場	対応不要
32	八潮市消防団第2分団第2部機械器具置場	対応不要
33	八潮市消防団第2分団第3部機械器具置場	対応不要
34	八潮市消防団第2分団第4部機械器具置場	対応不要
35	八潮市消防団第2分団第5部機械器具置場(詰所)	対応不要
36	八潮市消防団第2分団第5部機械器具置場(車庫)	対応不要
37	八潮市消防団第2分団第6部機械器具置場	対応不要
38	八潮市消防団第2分団第7部機械器具置場	調査不要
39	八潮市消防団第3分団第1部機械器具置場	対応不要
40	八潮市消防団第3分団第2部機械器具置場	対応不要
41	八潮市消防団第3分団第3部機械器具置場	対応不要
42	八潮市消防団第3分団第4部機械器具置場	対応不要
43	八潮市消防団第3分団第5部機械器具置場(詰所)	対応不要
44	八潮市消防団第3分団第5部機械器具置場(車庫)	対応不要
45	八潮市消防団第3分団第6部機械器具置場	対応不要

状況	合計数
対応済	0
対応不要	31
調査不要	4

平成 31 年 4 月 1 日時点

## 6-8 耐震基準の状況

### ① 常備消防施設

新築時の確認済証取得年月日が昭和56年5月31日以前の施設である旧耐震基準の施設が2施設、同年6月1日以降の施設である新耐震基準の施設が8施設です。

図表 56 耐震基準状況（常備消防施設）

番号	施設名称	耐震基準
1	消防局・草加消防署	旧耐震
2	草加消防署西分署	新耐震
3	草加消防署青柳分署	旧耐震
4	草加消防署青柳分署化学車庫	新耐震
5	草加消防署北分署	新耐震
6	草加消防署谷塚ステーション	新耐震
7	八潮消防署(指令センター含む)	新耐震
8	八潮消防署訓練塔A棟	新耐震
9	八潮消防署訓練塔B棟	新耐震
10	八潮消防署車両車庫	新耐震

状況	合計数
旧耐震	2
新耐震	8

平成31年4月1日時点

② 非常備消防施設

旧耐震基準の施設が 10 施設、新耐震基準の施設が 25 施設です。

図表 57 耐震基準状況（非常備消防施設）

番号	施設名称	耐震基準
11	草加市消防団第1分団第1部機械器具置場	旧耐震
12	草加市消防団第1分団第2部機械器具置場	新耐震
13	草加市消防団第1分団第3部機械器具置場	新耐震
14	草加市消防団第2分団第1部機械器具置場	新耐震
15	草加市消防団第2分団第2部機械器具置場	新耐震
16	草加市消防団第2分団第3部機械器具置場	新耐震
17	草加市消防団第3分団第1部機械器具置場	旧耐震
18	草加市消防団第3分団第2部機械器具置場	新耐震
19	草加市消防団第3分団第3部機械器具置場	旧耐震
20	草加市消防団第4分団第1部機械器具置場	新耐震
21	草加市消防団第4分団第2部機械器具置場	新耐震
22	草加市消防団第4分団第3部機械器具置場	新耐震
23	草加市消防団第5分団第1部消防ステーション	新耐震
24	草加市消防団第5分団第2部機械器具置場	新耐震
25	八潮市消防団第1分団第1部機械器具置場	新耐震
26	八潮市消防団第1分団第2部機械器具置場	新耐震
27	八潮市消防団第1分団第3部機械器具置場	新耐震
28	八潮市消防団第1分団第4部機械器具置場	旧耐震
29	八潮市消防団第1分団第5部機械器具置場	新耐震
30	八潮市消防団第1分団第6部機械器具置場	旧耐震
31	八潮市消防団第2分団第1部機械器具置場	新耐震
32	八潮市消防団第2分団第2部機械器具置場	新耐震
33	八潮市消防団第2分団第3部機械器具置場	新耐震
34	八潮市消防団第2分団第4部機械器具置場	新耐震
35	八潮市消防団第2分団第5部機械器具置場(詰所)	新耐震
36	八潮市消防団第2分団第5部機械器具置場(車庫)	旧耐震
37	八潮市消防団第2分団第6部機械器具置場	新耐震
38	八潮市消防団第2分団第7部機械器具置場	新耐震
39	八潮市消防団第3分団第1部機械器具置場	旧耐震
40	八潮市消防団第3分団第2部機械器具置場	旧耐震
41	八潮市消防団第3分団第3部機械器具置場	新耐震
42	八潮市消防団第3分団第4部機械器具置場	旧耐震
43	八潮市消防団第3分団第5部機械器具置場(詰所)	新耐震
44	八潮市消防団第3分団第5部機械器具置場(車庫)	旧耐震
45	八潮市消防団第3分団第6部機械器具置場	新耐震

状況	合計数
旧耐震	10
新耐震	25

平成 31 年 4 月 1 日時点

## 6-9 バリアフリーへの対応の状況

### ① 常備消防施設

バリアフリーに対応している施設が4施設、非対応の施設が2施設、対象外の施設が4施設です。

図表 58 バリアフリーへの対応状況（常備消防施設）

番号	施設名称	バリアフリーへの対応状況
1	消防局・草加消防署	非対応
2	草加消防署西分署	対応
3	草加消防署青柳分署	非対応
4	草加消防署青柳分署化学車庫	対象外
5	草加消防署北分署	対応
6	草加消防署谷塚ステーション	対応
7	八潮消防署(指令センター含む)	対応
8	八潮消防署訓練塔A棟	対象外
9	八潮消防署訓練塔B棟	対象外
10	八潮消防署車両車庫	対象外

状況	合計数
対応	4
非対応	2
対象外	4

注：バリアフリー法施行令（高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律施行令）の廊下等、階段、傾斜路、便所における主な設備（点字ブロック、手すり、多目的トイレ）が設置されている施設

平成31年4月1日時点

② 非常備消防施設

全ての施設でバリアフリーは対象外です。

図表 59 バリアフリーへの対応状況（非常備消防施設）

番号	施設名称	バリアフリーへの対応状況
11	草加市消防団第1分団第1部機械器具置場	対象外
12	草加市消防団第1分団第2部機械器具置場	対象外
13	草加市消防団第1分団第3部機械器具置場	対象外
14	草加市消防団第2分団第1部機械器具置場	対象外
15	草加市消防団第2分団第2部機械器具置場	対象外
16	草加市消防団第2分団第3部機械器具置場	対象外
17	草加市消防団第3分団第1部機械器具置場	対象外
18	草加市消防団第3分団第2部機械器具置場	対象外
19	草加市消防団第3分団第3部機械器具置場	対象外
20	草加市消防団第4分団第1部機械器具置場	対象外
21	草加市消防団第4分団第2部機械器具置場	対象外
22	草加市消防団第4分団第3部機械器具置場	対象外
23	草加市消防団第5分団第1部消防ステーション	対象外
24	草加市消防団第5分団第2部機械器具置場	対象外
25	八潮市消防団第1分団第1部機械器具置場	対象外
26	八潮市消防団第1分団第2部機械器具置場	対象外
27	八潮市消防団第1分団第3部機械器具置場	対象外
28	八潮市消防団第1分団第4部機械器具置場	対象外
29	八潮市消防団第1分団第5部機械器具置場	対象外
30	八潮市消防団第1分団第6部機械器具置場	対象外
31	八潮市消防団第2分団第1部機械器具置場	対象外
32	八潮市消防団第2分団第2部機械器具置場	対象外
33	八潮市消防団第2分団第3部機械器具置場	対象外
34	八潮市消防団第2分団第4部機械器具置場	対象外
35	八潮市消防団第2分団第5部機械器具置場(詰所)	対象外
36	八潮市消防団第2分団第5部機械器具置場(車庫)	対象外
37	八潮市消防団第2分団第6部機械器具置場	対象外
38	八潮市消防団第2分団第7部機械器具置場	対象外
39	八潮市消防団第3分団第1部機械器具置場	対象外
40	八潮市消防団第3分団第2部機械器具置場	対象外
41	八潮市消防団第3分団第3部機械器具置場	対象外
42	八潮市消防団第3分団第4部機械器具置場	対象外
43	八潮市消防団第3分団第5部機械器具置場(詰所)	対象外
44	八潮市消防団第3分団第5部機械器具置場(車庫)	対象外
45	八潮市消防団第3分団第6部機械器具置場	対象外

状況	合計数
対応	0
非対応	0
対象外	35

平成 31 年 4 月 1 日時点

## 6-10 配置消防車両の状況

## ① 常備消防車両

常備消防車両として、各消防署・分署に次の消防車両を配置しています。

図表 60 配置消防車両状況（常備消防・緊急車両） (台)

番号	施設名称	指揮車	消防ポンプ 自動車	化学 消防車	救助 工作車	はしご 自動車	救急 自動車	その他	合計
1	消防局・草加消防署 (救急ステーション含む)	1	2				3※1	3※2	9
2	草加消防署 西分署		1(1)		1	1 【40m 級】	1	1※3	5(1)
3	草加消防署 青柳分署		1	1			1(1)	2※4	5(1)
5	草加消防署 北分署		2				1	1※3	4
6	草加消防署 谷塚ステーション		1				1	1※3	3
7	八潮消防署	1	3	1	1 【高度】	1 【屈折】	3(1)	6※5	16(1)
合計		2	10(1)	2	2	2	10(2)	14	42(3)

( ):予備車

※1 うち1台は、救急ステーションに配置。

※2 高所作業車、司令車、資機材搬送車

※3 資機材搬送車

※4 特殊災害対応車、資機材搬送車

※5 司令車、後方支援車、資機材搬送車（八潮消防署・予防課）、予防広報車（予防課）、火災原因調査車（予防課）

平成31年4月1日時点

② 非常備消防車両

非常備消防車両として、各非常備消防施設に次の消防車両を配置しています。

図表 61 配置消防車両状況（非常備消防車両）

番号	施設名称	消防車両
11	草加市消防団第1分団第1部機械器具置場	積載車
12	草加市消防団第1分団第2部機械器具置場	消防ポンプ自動車
13	草加市消防団第1分団第3部機械器具置場	消防ポンプ自動車
14	草加市消防団第2分団第1部機械器具置場	消防ポンプ自動車
15	草加市消防団第2分団第2部機械器具置場	積載車
16	草加市消防団第2分団第3部機械器具置場	積載車
17	草加市消防団第3分団第1部機械器具置場	消防ポンプ自動車
18	草加市消防団第3分団第2部機械器具置場	消防ポンプ自動車
19	草加市消防団第3分団第3部機械器具置場	消防ポンプ自動車
20	草加市消防団第4分団第1部機械器具置場	消防ポンプ自動車
21	草加市消防団第4分団第2部機械器具置場	消防ポンプ自動車
22	草加市消防団第4分団第3部機械器具置場	積載車
23	草加市消防団第5分団第1部消防ステーション	消防ポンプ自動車
24	草加市消防団第5分団第2部機械器具置場	消防ポンプ自動車
25	八潮市消防団第1分団第1部機械器具置場	積載車
26	八潮市消防団第1分団第2部機械器具置場	消防ポンプ自動車
27	八潮市消防団第1分団第3部機械器具置場	積載車
28	八潮市消防団第1分団第4部機械器具置場	積載車
29	八潮市消防団第1分団第5部機械器具置場	積載車
30	八潮市消防団第1分団第6部機械器具置場	積載車
31	八潮市消防団第2分団第1部機械器具置場	積載車
32	八潮市消防団第2分団第2部機械器具置場	積載車
33	八潮市消防団第2分団第3部機械器具置場	積載車
34	八潮市消防団第2分団第4部機械器具置場	消防ポンプ自動車
35	八潮市消防団第2分団第5部機械器具置場(詰所)	積載車
36	八潮市消防団第2分団第5部機械器具置場(車庫)	
37	八潮市消防団第2分団第6部機械器具置場	消防ポンプ自動車
38	八潮市消防団第2分団第7部機械器具置場	積載車
39	八潮市消防団第3分団第1部機械器具置場	積載車
40	八潮市消防団第3分団第2部機械器具置場	積載車
41	八潮市消防団第3分団第3部機械器具置場	消防ポンプ自動車
42	八潮市消防団第3分団第4部機械器具置場	積載車
43	八潮市消防団第3分団第5部機械器具置場(詰所)	積載車
44	八潮市消防団第3分団第5部機械器具置場(車庫)	
45	八潮市消防団第3分団第6部機械器具置場	積載車

(台)

	消防ポンプ自動車	積載車	合計
草加市消防団	10	4	14
八潮市消防団	4	15	19
合計	14	19	33

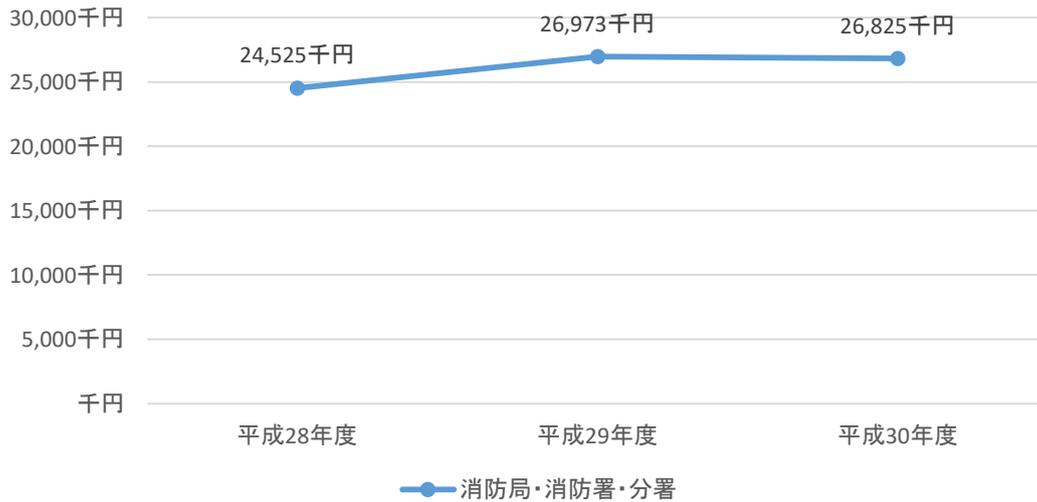
平成 31 年 4 月 1 日時点

## 6-11 維持管理費の推移

### ① 常備消防

平成30年度の維持管理費は2,683万円です。近年3年間では、約2,400万円から2,700万円前後で推移しています。

図表 62 維持管理費（常備消防）

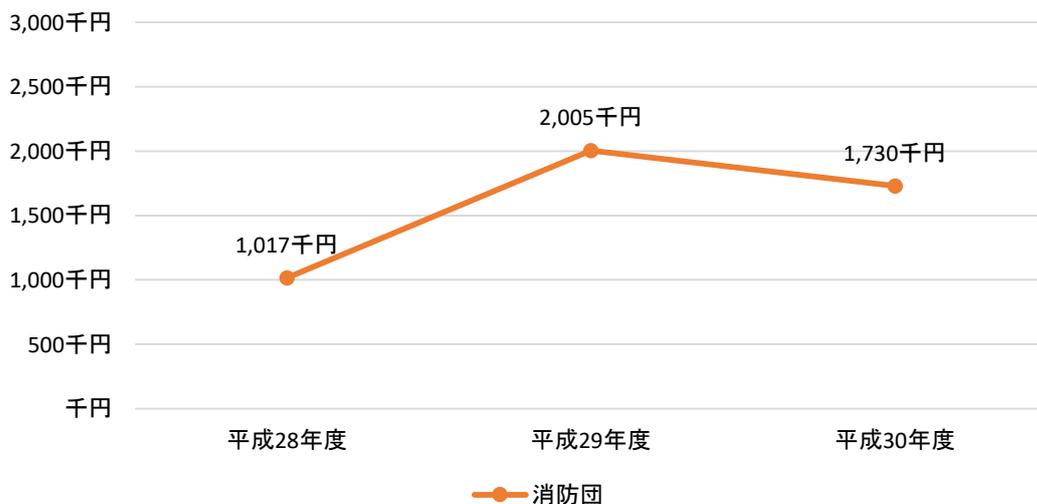


注：維持管理費は、光熱費（電気料金、ガス料金、水道料金）及び修繕費としています。

### ② 非常備消防

平成30年度の維持管理費は173万円です。近年3年間では、約100万円から200万円前後で推移しています。

図表 63 維持管理費（非常備消防）



注：維持管理費は、光熱費（電気料金、ガス料金、水道料金）及び修繕費としています。

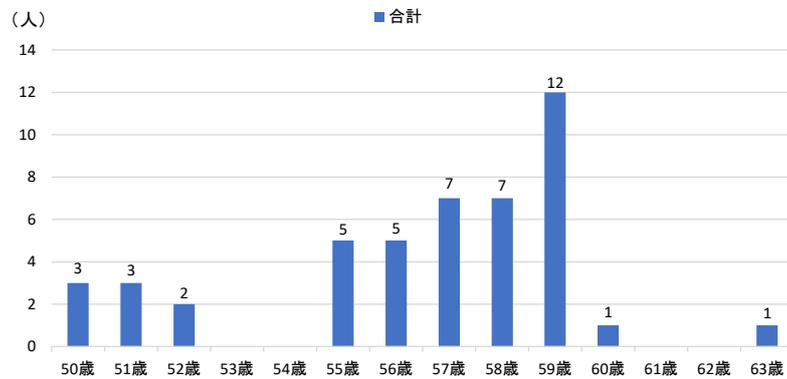
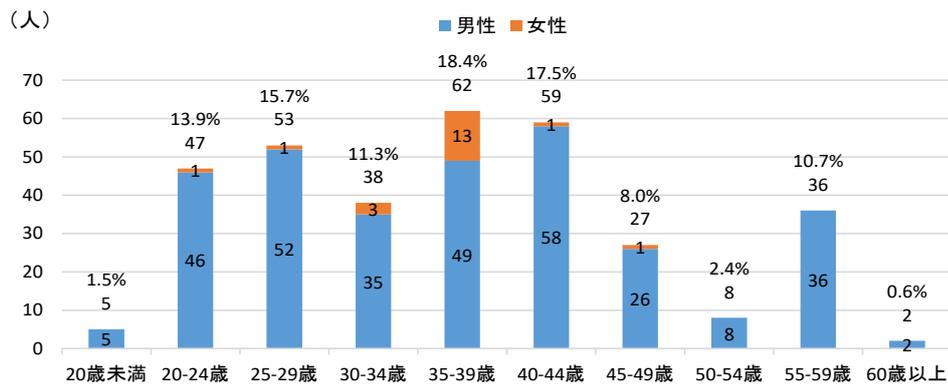
## 6-12 職員

### 6-12-1 職員数

#### ① 常備消防職員

年齢構成別の常備消防職員数では、35～39歳の職員数の占める割合は全体の18.4%と最も多くなっています。次に40～44歳、25～29歳の順に多くなっています。一方、5年以内に定年退職を迎える55～59歳の職員数が10.7%を占めています。

図表 64 職員数（常備消防）



(人)

名称	20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上	合計
消防局・草加消防署	0	13	15	14	18	22	7	2	13	2	106
草加消防署西分署	1	9	8	3	9	2	3	0	2	0	37
草加消防署青柳分署	2	6	7	1	6	5	3	0	3	0	33
草加消防署北分署	1	6	4	1	7	8	1	1	2	0	31
草加消防署 谷塚ステーション	0	2	4	5	2	2	2	2	4	0	23
八潮消防署 (予防課・情報指令課含む)	1	11	15	14	20	20	11	3	12	0	107
合計	5	47	53	38	62	59	27	8	36	2	337

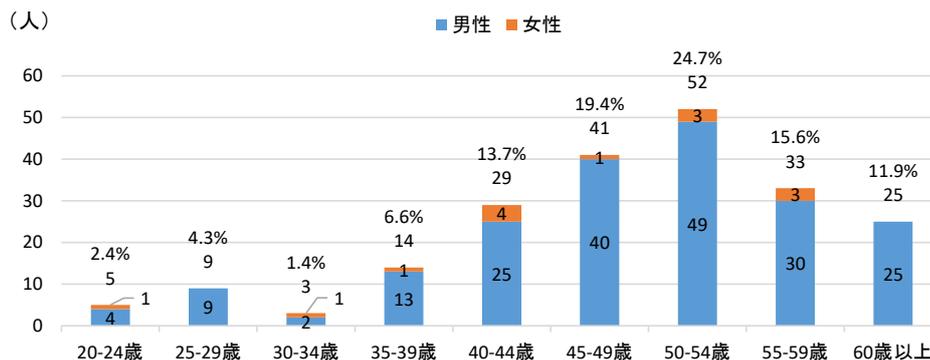
平成31年4月1日時点

② 非常備消防職員

草加市の消防団員数では、50～54歳の団員数が約24.7%と最も多く、次に45～49歳、55～59歳の順に多くなっています。八潮市の消防団員数は40～44歳の団員数が約29.8%と最も多く、次に45～49歳、30～34歳、35～39歳の順に多くなっています。

草加市、八潮市ともに、特に、若い世代の団員数が極端に少なく、消防団全体の組織体制の維持が懸念されています。

図表 65 団員数（非常備消防・草加市消防団）

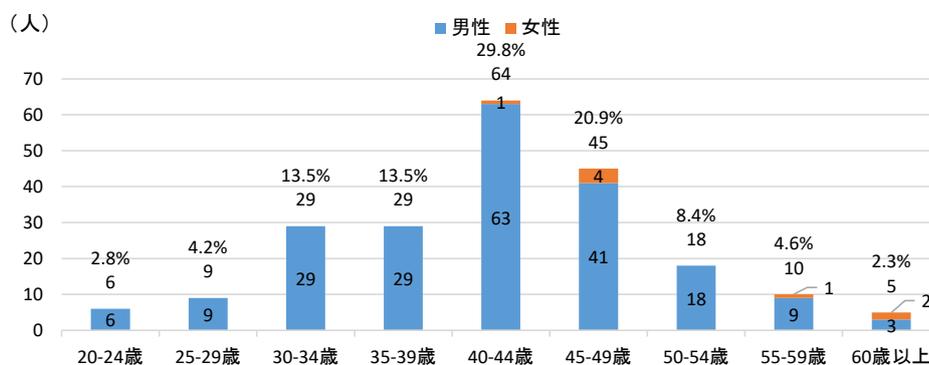


(人)

名称		20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上	合計
草加市消防団	団本部	1	0	1	1	4	1	4	3	4	19
	第1分団第1部	0	1	0	0	1	3	1	1	3	10
	第1分団第2部	1	0	0	2	2	3	3	3	1	15
	第1分団第3部	0	1	0	0	0	3	4	1	0	9
	第2分団第1部	0	1	0	1	5	3	3	1	2	16
	第2分団第2部	1	0	0	0	5	2	3	2	3	16
	第2分団第3部	0	0	1	0	1	1	6	3	2	14
	第3分団第1部	0	0	0	1	1	3	5	2	0	12
	第3分団第2部	0	0	0	5	1	0	2	5	2	15
	第3分団第3部	0	1	1	0	0	3	1	4	2	12
	第4分団第1部	1	2	0	0	4	5	4	3	3	22
	第4分団第2部	0	1	0	0	0	0	6	1	2	10
	第4分団第3部	0	0	0	0	2	4	2	0	0	8
	第5分団第1部	0	2	0	2	3	8	4	1	0	20
	第5分団第2部	1	0	0	2	0	2	4	3	1	13
合計	5	9	3	14	29	41	52	33	25	211	

平成31年4月1日時点

図表 66 団員数（非常備消防・八潮市消防団）



(人)

名称	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上	合計
八潮市消防団 団本部	0	0	0	0	1	7	1	5	3	17
第1分団第1部	0	0	1	2	5	3	1	0	0	12
第1分団第2部	1	0	0	0	3	1	4	2	0	11
第1分団第3部	0	1	0	2	2	3	1	0	0	9
第1分団第4部	0	2	1	2	3	2	1	0	0	11
第1分団第5部	1	1	0	0	7	1	2	0	0	12
第1分団第6部	1	1	1	3	0	0	0	1	1	8
第2分団第1部	0	0	6	4	0	1	0	0	0	11
第2分団第2部	0	1	1	1	7	1	1	0	0	12
第2分団第3部	0	0	0	0	3	4	0	0	0	7
第2分団第4部	0	0	2	7	3	0	0	0	0	12
第2分団第5部	0	1	1	2	6	0	0	0	0	10
第2分団第6部	0	1	3	0	4	4	0	0	0	12
第2分団第7部	3	0	0	1	2	5	0	1	0	12
第3分団第1部	0	0	4	1	4	2	0	0	0	11
第3分団第2部	0	0	3	1	5	2	0	0	0	11
第3分団第3部	0	0	4	2	2	2	2	0	0	12
第3分団第4部	0	0	2	0	2	3	0	0	0	7
第3分団第5部	0	1	0	0	5	0	1	0	0	7
第3分団第6部	0	0	0	1	0	4	4	1	1	11
合計	6	9	29	29	64	45	18	10	5	215

平成 31 年 4 月 1 日時点

6-12-2 有資格者の状況

常備消防職員の消防活動に関する有資格者の状況は、次のとおりです。

図表 67 常備消防職員の各種資格取得状況 (人)

種別	所属	消防局	草加消防署	西分署	青柳分署	北分署	谷塚ステーション	八潮消防署	合計
(所属別人数)		69	70	37	33	31	23	74	337
救急救命士		22	24	8	9	7	11	21	102
衛生管理者		1	1	1	0	1	1	3	8
大型自動車運転免許		41	38	26	15	21	11	52	204
中型自動車運転免許		4	5	1	3	5	2	4	24
中型自動車運転免許(8t未滿)		22	17	4	6	2	8	8	67
準中型自動車運転免許		0	0	0	0	1	0	1	2
準中型自動車運転免許(5t未滿)		0	3	1	7	0	0	4	15
普通自動車運転免許		2	7	5	2	2	2	5	25
安全運転管理者		3	2	1	1	0	1	0	8
消防救急緊急自動車運転技能		6	3	4	1	2	2	5	23
特別管理産業廃棄物管理責任者		3	6	0	4	1	4	3	21
酸素欠乏硫化水素危険作業主任者		8	5	6	4	4	3	18	48
ガス溶接技能講習		4	4	1	1	2	1	13	26
小型船舶操縦士免許		11	9	10	6	6	2	20	64
特定化学物質等作業主任技能		3	0	3	0	0	2	4	12
小型移動式クレーン免許		11	12	11	5	6	3	28	76
玉掛技能		13	12	11	5	7	4	28	80
陸上特殊無線技士		50	54	25	20	21	15	53	238
予防技術資格者(消防用設備等)		5	1	0	0	1	2	0	9
予防技術資格者(防火査察)		5	1	0	0	1	2	0	9
予防技術資格者(危険物)		2	1	0	0	1	1	0	5

平成31年4月1日時点

## 【個別基礎施設データ】

個別基礎施設データは全て平成 31 年 4 月 1 日時点です。

### (1) 消防局・草加消防署

- ① 竣工年 昭和 43 年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 -1 年
- ③ 面積 敷地面積 1463.61 m<sup>2</sup>  
           建築面積 410.91 m<sup>2</sup>  
           延床面積 1266.15 m<sup>2</sup>
- ④ 大規模改修実施状況 未実施
- ⑤ 耐震改修実施状況 実施済
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 旧耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 (台)



指揮車	消防ポンプ自動車	化学消防車	救助工作車	はしご自動車	救急自動車	その他
1	2	-	-	-	3	3

その他：高所作業車・司令車・資機材搬送車

- ⑩ 職員・署員数 106 人

#### ■内訳 (人)

20 歳未満	20-24 歳	25-29 歳	30-34 歳	35-39 歳	40-44 歳	45-49 歳	50-54 歳	55-59 歳	60 歳以上
0	13	15	14	18	22	7	2	13	2

(2) 草加消防署西分署

- ① 竣工年 平成 23 年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 30 年
- ③ 面積 敷地面積 1831.34 m<sup>2</sup>  
           建築面積 485.79 m<sup>2</sup>  
           延床面積 1071.76 m<sup>2</sup>
- ④ 大規模改修実施状況 不要
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 調査不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 (台) ( ): 予備車



指揮車	消防ポンプ自動車	化学消防車	救助工作車	はしご自動車	救急自動車	その他
-	1(1)	-	1	1	1	1

その他：資機材搬送車

- ⑩ 職員・署員数 37 人

■内訳 (人)

20 歳未満	20-24 歳	25-29 歳	30-34 歳	35-39 歳	40-44 歳	45-49 歳	50-54 歳	55-59 歳	60 歳以上
1	9	8	3	9	2	3	0	2	0

### (3) 草加消防署青柳分署

- ① 竣工年 昭和54年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 10年
- ③ 面積 敷地面積 2235.76㎡  
           建築面積 462.15㎡  
           延床面積 729.90㎡
- ④ 大規模改修実施状況 未実施
- ⑤ 耐震改修実施状況 未実施
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応済
- ⑧ 耐震基準状況 旧耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況(台) ( ): 予備車



指揮車	消防ポンプ自動車	化学消防車	救助工作車	はしご自動車	救急自動車	その他
-	1	1	-	-	1(1)	2

その他：特殊災害対応車・資機材搬送車

- ⑩ 職員・署員数 33人

■内訳(人)

20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上
2	6	7	1	6	5	3	0	3	0

### (4) 草加消防署青柳分署化学車庫

- ① 竣工年 平成17年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 24年
- ③ 面積 敷地面積 ※青柳分署の面積に包含  
           建築面積 110.00㎡  
           延床面積 110.00㎡
- ④ 大規模改修実施状況 不要
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 調査不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震



(5) 草加消防署北分署

- ① 竣工年 平成11年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 30年
- ③ 面積 敷地面積 1613.55㎡  
           建築面積 497.04㎡  
           延床面積 909.49㎡
- ④ 大規模改修実施状況 未実施
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 (台)



指揮車	消防ポンプ自動車	化学消防車	救助工作車	はしご自動車	救急自動車	その他
-	2	-	-	-	1	1

その他：資機材搬送車

- ⑩ 職員・署員数 31人

■内訳 (人)

20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上
1	6	4	1	7	8	1	1	2	0

## (6) 草加消防署谷塚ステーション

- ① 竣工年 平成 24 年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 31 年
- ③ 面積 敷地面積 794.19 m<sup>2</sup>  
           建築面積 175.24 m<sup>2</sup>  
           延床面積 292.42 m<sup>2</sup>
- ④ 大規模改修実施状況 不要
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 調査不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 (台)



指揮車	消防ポンプ自動車	化学消防車	救助工作車	はしご自動車	救急自動車	その他
-	1	-	-	-	1	1

その他：資機材搬送車

- ⑩ 職員・署員数 23 人

### ■内訳 (人)

20 歳未満	20-24 歳	25-29 歳	30-34 歳	35-39 歳	40-44 歳	45-49 歳	50-54 歳	55-59 歳	60 歳以上
0	2	4	5	2	2	2	2	4	0

(7)八潮消防署（指令センター含む）

- ① 竣工年 平成 21 年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 40 年
- ③ 面積 敷地面積 6228.61 ㎡  
     建築面積 1787.78 ㎡  
     延床面積 3787.86 ㎡
- ④ 大規模改修実施状況 不要
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 調査不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況（台） （ ）：予備車



指揮車	消防ポンプ自動車	化学消防車	救助工作車	はしご自動車	救急自動車	その他
1	3	1	1	1	3(1)	6

その他：司令車・後方支援車・資機材搬送車（八潮署・予防）・予防広報車（予防）  
 火災原因調査車（予防）

- ⑩ 職員・署員数 107 人

■内訳（人）

20 歳未満	20-24 歳	25-29 歳	30-34 歳	35-39 歳	40-44 歳	45-49 歳	50-54 歳	55-59 歳	60 歳以上
1	11	15	14	20	20	11	3	12	0

### (8) 八潮消防署訓練塔 A 棟

- ① 竣工年 平成 21 年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 21 年
- ③ 面積 敷地面積 ※八潮消防署の面積に包含  
建築面積 60.00 m<sup>2</sup>  
延床面積 274.50 m<sup>2</sup>
- ④ 大規模改修実施状況 不要
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 調査不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震



### (9) 八潮消防署訓練塔 B 棟

- ① 竣工年 平成 21 年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 21 年
- ③ 面積 敷地面積 ※八潮消防署の面積に包含  
建築面積 75.00 m<sup>2</sup>  
延床面積 120.00 m<sup>2</sup>
- ④ 大規模改修実施状況 不要
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 調査不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震



### (10) 八潮消防署車両車庫

- ① 竣工年 平成 21 年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 21 年
- ③ 面積 敷地面積 ※八潮消防署の面積に包含  
建築面積 187.00 m<sup>2</sup>  
延床面積 187.00 m<sup>2</sup>
- ④ 大規模改修実施状況 不要
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 調査不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震



(11) 草加市消防団第1分団第1部機械器具置場

- ① 竣工年 昭和48年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 -15年
- ③ 面積 敷地面積 102.47㎡  
建築面積 26.04㎡  
延床面積 52.08㎡
- ④ 大規模改修実施状況 未実施
- ⑤ 耐震改修実施状況 未実施
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 旧耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 積載車
- ⑩ 団員数 10人



■内訳(人)

20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上
0	0	1	0	0	1	3	1	1	3

(12) 草加市消防団第1分団第2部機械器具置場

- ① 竣工年 平成24年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 24年
- ③ 面積 敷地面積 96.98㎡  
建築面積 34.01㎡  
延床面積 69.29㎡
- ④ 大規模改修実施状況 不要
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 調査不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 消防ポンプ自動車
- ⑩ 団員数 15人



■内訳(人)

20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上
0	1	0	0	2	2	3	3	3	1

### (13) 草加市消防団第1分団第3部機械器具置場

- ① 竣工年 平成16年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 16年
- ③ 面積 敷地面積 413.00㎡  
           建築面積 33.28㎡  
           延床面積 66.56㎡
- ④ 大規模改修実施状況 未実施
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 消防ポンプ自動車
- ⑩ 団員数 9人



#### ■内訳（人）

20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上
0	0	1	0	0	0	3	4	1	0

### (14) 草加市消防団第2分団第1部機械器具置場

- ① 竣工年 平成8年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 8年
- ③ 面積 敷地面積 66.27㎡  
           建築面積 33.57㎡  
           延床面積 67.14㎡
- ④ 大規模改修実施状況 未実施
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 消防ポンプ自動車
- ⑩ 団員数 16人



#### ■内訳（人）

20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上
0	0	1	0	1	5	3	3	1	2

**(15) 草加市消防団第2分団第2部機械器具置場**

- ① 竣工年 平成 29 年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 29 年
- ③ 面積 敷地面積 70.00 m<sup>2</sup>  
           建築面積 40.00 m<sup>2</sup>  
           延床面積 80.00 m<sup>2</sup>
- ④ 大規模改修実施状況 不要
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 調査不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 積載車
- ⑩ 団員数 16 人



■内訳（人）

20 歳未満	20-24 歳	25-29 歳	30-34 歳	35-39 歳	40-44 歳	45-49 歳	50-54 歳	55-59 歳	60 歳以上
0	1	0	0	0	5	2	3	2	3

**(16) 草加市消防団第2分団第3部機械器具置場**

- ① 竣工年 平成 5 年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 5 年
- ③ 面積 敷地面積 75.05 m<sup>2</sup>  
           建築面積 39.65 m<sup>2</sup>  
           延床面積 59.47 m<sup>2</sup>
- ④ 大規模改修実施状況 未実施
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 積載車
- ⑩ 団員数 14 人



■内訳（人）

20 歳未満	20-24 歳	25-29 歳	30-34 歳	35-39 歳	40-44 歳	45-49 歳	50-54 歳	55-59 歳	60 歳以上
0	0	0	1	0	1	1	6	3	2

### (17) 草加市消防団第3分団第1部機械器具置場

- ① 竣工年 昭和47年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 -16年
- ③ 面積 敷地面積 21.00㎡  
           建築面積 20.35㎡  
           延床面積 20.35㎡
- ④ 大規模改修実施状況 未実施
- ⑤ 耐震改修実施状況 未実施
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 旧耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 消防ポンプ自動車
- ⑩ 団員数 12人



#### ■内訳 (人)

20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上
0	0	0	0	1	1	3	5	2	0

### (18) 草加市消防団第3分団第2部機械器具置場

- ① 竣工年 平成9年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 3年
- ③ 面積 敷地面積 186.98㎡  
           建築面積 33.28㎡  
           延床面積 66.56㎡
- ④ 大規模改修実施状況 未実施
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 消防ポンプ自動車
- ⑩ 団員数 15人



#### ■内訳 (人)

20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上
0	0	0	0	5	1	0	2	5	2

(19) 草加市消防団第3分団第3部機械器具置場

- ① 竣工年 昭和52年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 -11年
- ③ 面積 敷地面積 119.11㎡ (借地等)  
           建築面積 30.84㎡  
           延床面積 61.67㎡
- ④ 大規模改修実施状況 未実施
- ⑤ 耐震改修実施状況 未実施
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 旧耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 消防ポンプ自動車
- ⑩ 団員数 12人



■内訳 (人)

20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上
0	0	1	1	0	0	3	1	4	2

(20) 草加市消防団第4分団第1部機械器具置場

- ① 竣工年 昭和61年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 -2年
- ③ 面積 敷地面積 125.61㎡  
           建築面積 29.38㎡  
           延床面積 58.76㎡
- ④ 大規模改修実施状況 未実施
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 消防ポンプ自動車
- ⑩ 団員数 22人



■内訳 (人)

20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上
0	1	2	0	0	4	5	4	3	3

### (21) 草加市消防団第4分団第2部機械器具置場

- ① 竣工年 昭和59年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 -4年
- ③ 面積 敷地面積 83.06㎡ (借地等)  
           建築面積 28.35㎡  
           延床面積 56.70㎡
- ④ 大規模改修実施状況 未実施
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 消防ポンプ自動車
- ⑩ 団員数 10人



#### ■内訳 (人)

20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上
0	0	1	0	0	0	0	6	1	2

### (22) 草加市消防団第4分団第3部機械器具置場

- ① 竣工年 平成12年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 6年
- ③ 面積 敷地面積 71.92㎡  
           建築面積 33.28㎡  
           延床面積 66.56㎡
- ④ 大規模改修実施状況 未実施
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 積載車
- ⑩ 団員数 8人



#### ■内訳 (人)

20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上
0	0	0	0	0	2	4	2	0	0

**(23) 草加市消防団第5分団第1部消防ステーション**

- ① 竣工年 平成19年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 19年
- ③ 面積 敷地面積 144.00㎡ (借地等)  
           建築面積 69.90㎡  
           延床面積 69.90㎡
- ④ 大規模改修実施状況 不要
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 調査不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 消防ポンプ自動車
- ⑩ 団員数 20人



■内訳 (人)

20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上
0	0	2	0	2	3	8	4	1	0

**(24) 草加市消防団第5分団第2部機械器具置場**

- ① 竣工年 平成14年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 8年
- ③ 面積 敷地面積 133.02㎡ (借地等)  
           建築面積 67.49㎡  
           延床面積 67.49㎡
- ④ 大規模改修実施状況 未実施
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 消防ポンプ自動車
- ⑩ 団員数 13人



■内訳 (人)

20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上
0	1	0	0	2	0	2	4	3	1

### (25)八潮市消防団第1分団第1部機械器具置場

- ① 竣工年 平成16年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 10年
- ③ 面積 敷地面積 74.00㎡ (借地等)  
           建築面積 32.83㎡  
           延床面積 32.83㎡
- ④ 大規模改修実施状況 未実施
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 積載車
- ⑩ 団員数 12人



#### ■内訳 (人)

20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上
0	0	0	1	2	5	3	1	0	0

### (26)八潮市消防団第1分団第2部機械器具置場

- ① 竣工年 昭和62年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 -1年
- ③ 面積 敷地面積 95.75㎡  
           建築面積 25.87㎡  
           延床面積 51.74㎡
- ④ 大規模改修実施状況 未実施
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 消防ポンプ自動車
- ⑩ 団員数 11人



#### ■内訳 (人)

20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上
0	1	0	0	0	3	1	4	2	0

**(27)八潮市消防団第1分団第3部機械器具置場**

- ① 竣工年 平成4年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 4年
- ③ 面積 敷地面積 74.00㎡ (借地等)  
           建築面積 18.70㎡  
           延床面積 37.40㎡
- ④ 大規模改修実施状況 未実施
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 積載車
- ⑩ 団員数 9人



■内訳 (人)

20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上
0	0	1	0	2	2	3	1	0	0

**(28)八潮市消防団第1分団第4部機械器具置場**

- ① 竣工年 昭和54年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 -15年
- ③ 面積 敷地面積 80.11㎡  
           建築面積 33.80㎡  
           延床面積 33.80㎡
- ④ 大規模改修実施状況 実施済
- ⑤ 耐震改修実施状況 未実施
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 旧耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 積載車
- ⑩ 団員数 11人



■内訳 (人)

20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上
0	0	2	1	2	3	2	1	0	0

### (29)八潮市消防団第1分団第5部機械器具置場

- ① 竣工年 平成6年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 6年
- ③ 面積 敷地面積 68.00㎡ (借地等)  
           建築面積 18.70㎡  
           延床面積 37.40㎡
- ④ 大規模改修実施状況 未実施
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 積載車
- ⑩ 団員数 12人



#### ■内訳 (人)

20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上
0	1	1	0	0	7	1	2	0	0

### (30)八潮市消防団第1分団第6部機械器具置場

- ① 竣工年 昭和55年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 -14年
- ③ 面積 敷地面積 104.00㎡  
           建築面積 34.46㎡  
           延床面積 34.46㎡
- ④ 大規模改修実施状況 実施済
- ⑤ 耐震改修実施状況 未実施
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 旧耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 積載車
- ⑩ 団員数 8人



#### ■内訳 (人)

20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上
0	1	1	1	3	0	0	0	1	1

**(31)八潮市消防団第2分団第1部機械器具置場**

- ① 竣工年 平成5年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 5年
- ③ 面積 敷地面積 104.00㎡  
           建築面積 25.86㎡  
           延床面積 51.72㎡
- ④ 大規模改修実施状況 未実施
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 積載車
- ⑩ 団員数 11人



■内訳（人）

20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上
0	0	0	6	4	0	1	0	0	0

**(32)八潮市消防団第2分団第2部機械器具置場**

- ① 竣工年 昭和57年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 -12年
- ③ 面積 敷地面積 113.75㎡  
           建築面積 39.39㎡  
           延床面積 39.39㎡
- ④ 大規模改修実施状況 実施済
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 積載車
- ⑩ 団員数 12人



■内訳（人）

20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上
0	0	1	1	1	7	1	1	0	0

### (33)八潮市消防団第2分団第3部機械器具置場

- ① 竣工年 平成8年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 8年
- ③ 面積 敷地面積 101.88㎡  
建築面積 25.52㎡  
延床面積 51.04㎡
- ④ 大規模改修実施状況 未実施
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 積載車
- ⑩ 団員数 7人



#### ■内訳（人）

20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上
0	0	0	0	0	3	4	0	0	0

### (34)八潮市消防団第2分団第4部機械器具置場

- ① 竣工年 昭和62年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 -1年
- ③ 面積 敷地面積 165.00㎡（借地等）  
建築面積 25.86㎡  
延床面積 51.72㎡
- ④ 大規模改修実施状況 実施済
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 消防ポンプ自動車
- ⑩ 団員数 12人



#### ■内訳（人）

20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上
0	0	0	2	7	3	0	0	0	0

**(35)八潮市消防団第2分団第5部機械器具置場（詰所）**

- ① 竣工年 平成元年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 -13年
- ③ 面積 敷地面積 ※下記の車庫敷地面積に包含  
     建築面積 23.71 m<sup>2</sup>  
     延床面積 23.71 m<sup>2</sup>
- ④ 大規模改修実施状況 未実施
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 積載車
- ⑩ 団員数 10人



詰所と車庫が別棟（車庫裏側が詰所）

**(36)八潮市消防団第2分団第5部  
機械器具置場（車庫）**

- ① 竣工年 昭和50年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 -13年
- ③ 面積 敷地面積 130.79 m<sup>2</sup>（借地等）  
     建築面積 17.06 m<sup>2</sup>  
     延床面積 17.06 m<sup>2</sup>
- ④ 大規模改修実施状況 未実施
- ⑤ 耐震改修実施状況 未実施
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 旧耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 -
- ⑩ 団員数 -人

■内訳（人）

20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上
0	0	1	1	2	6	0	0	0	0

### (37)八潮市消防団第2分団第6部機械器具置場

- ① 竣工年 昭和 57 年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 -6 年
- ③ 面積 敷地面積 94.24 m<sup>2</sup>  
           建築面積 25.74 m<sup>2</sup>  
           延床面積 51.48 m<sup>2</sup>
- ④ 大規模改修実施状況 未実施
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 消防ポンプ自動車
- ⑩ 団員数 12 人



#### ■内訳 (人)

20 歳未満	20-24 歳	25-29 歳	30-34 歳	35-39 歳	40-44 歳	45-49 歳	50-54 歳	55-59 歳	60 歳以上
0	0	1	3	0	4	4	0	0	0

### (38)八潮市消防団第2分団第7部機械器具置場

- ① 竣工年 平成 19 年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 13 年
- ③ 面積 敷地面積 100.30 m<sup>2</sup>  
           建築面積 24.70 m<sup>2</sup>  
           延床面積 24.70 m<sup>2</sup>
- ④ 大規模改修実施状況 不要
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 調査不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 積載車
- ⑩ 団員数 12 人



#### ■内訳 (人)

20 歳未満	20-24 歳	25-29 歳	30-34 歳	35-39 歳	40-44 歳	45-49 歳	50-54 歳	55-59 歳	60 歳以上
0	3	0	0	1	2	5	0	1	0

**(39)八潮市消防団第3分団第1部機械器具置場**

- ① 竣工年 昭和56年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 -13年
- ③ 面積 敷地面積 160.17㎡  
建築面積 34.10㎡  
延床面積 34.10㎡
- ④ 大規模改修実施状況 実施済
- ⑤ 耐震改修実施状況 未実施
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 旧耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 積載車
- ⑩ 団員数 11人



■内訳（人）

20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上
0	0	0	4	1	4	2	0	0	0

**(40)八潮市消防団第3分団第2部機械器具置場**

- ① 竣工年 昭和55年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 -14年
- ③ 面積 敷地面積 54.83㎡  
建築面積 33.47㎡  
延床面積 33.47㎡
- ④ 大規模改修実施状況 実施済
- ⑤ 耐震改修実施状況 未実施
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 旧耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 積載車
- ⑩ 団員数 11人



■内訳（人）

20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上
0	0	0	3	1	5	2	0	0	0

### (41)八潮市消防団第3分団第3部機械器具置場

- ① 竣工年 昭和 60 年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 -3 年
- ③ 面積 敷地面積 58.00 m<sup>2</sup>  
建築面積 25.87 m<sup>2</sup>  
延床面積 51.74 m<sup>2</sup>
- ④ 大規模改修実施状況 未実施
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 消防ポンプ自動車
- ⑩ 団員数 12 人



#### ■内訳 (人)

20 歳未満	20-24 歳	25-29 歳	30-34 歳	35-39 歳	40-44 歳	45-49 歳	50-54 歳	55-59 歳	60 歳以上
0	0	0	4	2	2	2	2	0	0

### (42)八潮市消防団第3分団第4部機械器具置場

- ① 竣工年 昭和 56 年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 -13 年
- ③ 面積 敷地面積 56.70 m<sup>2</sup> (借地等)  
建築面積 37.43 m<sup>2</sup>  
延床面積 37.43 m<sup>2</sup>
- ④ 大規模改修実施状況 実施済
- ⑤ 耐震改修実施状況 未実施
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 旧耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 積載車
- ⑩ 団員数 7 人



#### ■内訳 (人)

20 歳未満	20-24 歳	25-29 歳	30-34 歳	35-39 歳	40-44 歳	45-49 歳	50-54 歳	55-59 歳	60 歳以上
0	0	0	2	0	2	3	0	0	0

(43)八潮市消防団第3分団第5部機械器具置場（詰所）

- ① 竣工年 平成3年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 -11年
- ③ 面積 敷地面積 ※下記の車庫敷地面積に包含  
     建築面積 29.81 m<sup>2</sup>  
     延床面積 29.81 m<sup>2</sup>
- ④ 大規模改修実施状況 未実施
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 積載車
- ⑩ 団員数 7人



詰所と車庫が別棟（車庫裏側が詰所）

(44)八潮市消防団第3分団第5部  
 機械器具置場（車庫）

- ① 竣工年 昭和52年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 -17年
- ③ 面積 敷地面積 136.00 m<sup>2</sup>  
     建築面積 18.63 m<sup>2</sup>  
     延床面積 18.63 m<sup>2</sup>
- ④ 大規模改修実施状況 未実施
- ⑤ 耐震改修実施状況 未実施
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 旧耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 -
- ⑩ 団員数 -人

■内訳（人）

20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上
0	0	1	0	0	5	0	1	0	0

### (45) 八潮市消防団第3分団第6部機械器具置場

- ① 竣工年 昭和 63 年
- ② 減価償却資産耐用年数到達までの年数 0 年
- ③ 面積 敷地面積 39.29 m<sup>2</sup>  
建築面積 18.02 m<sup>2</sup>  
延床面積 36.04 m<sup>2</sup>
- ④ 大規模改修実施状況 未実施
- ⑤ 耐震改修実施状況 不要
- ⑥ 劣化診断実施状況 未実施
- ⑦ アスベスト対応状況 対応不要
- ⑧ 耐震基準状況 新耐震
- ⑨ 配置消防車両の状況 積載車
- ⑩ 団員数 11 人



#### ■内訳（人）

20 歳未満	20-24 歳	25-29 歳	30-34 歳	35-39 歳	40-44 歳	45-49 歳	50-54 歳	55-59 歳	60 歳以上
0	0	0	0	1	0	4	4	1	1

## 7 更新費用の推計

### 7-1 前提条件

平成24年度に一般財団法人地域総合整備財団が開発した「公共施設更新費用試算ソフト」を用いて、本組合における消防施設の更新に必要な費用を試算しました。当試算ソフトは、平成22年に総務省監修のもと一般財団法人自治総合センターが実施した「公共施設及びインフラ資産の更新に係る費用を簡便に推計する方法に関する調査研究」に基づき開発されたものです。

試算対象は、本組合が所有または使用し、管理する消防施設として45施設全てとし、その全ての施設数と規模のまま維持し続けることを前提とします。

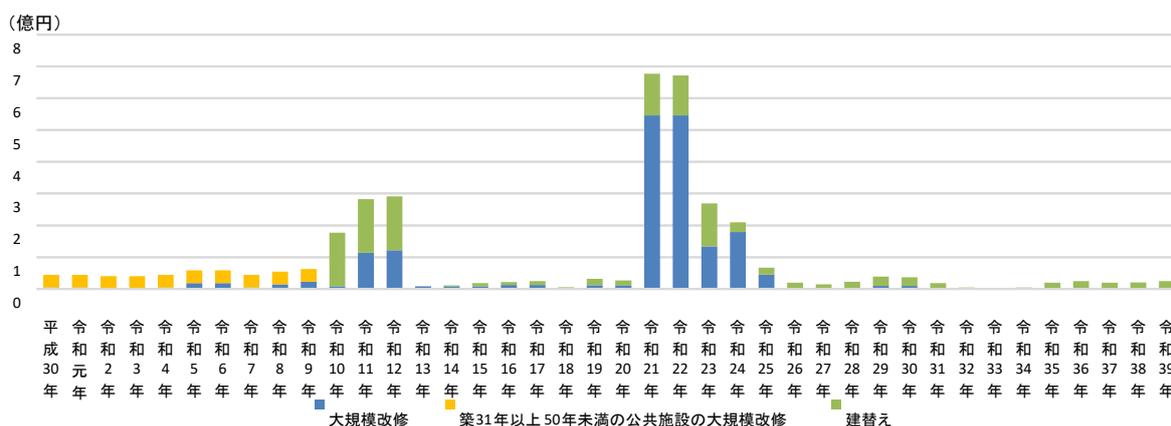
試算の前提条件等は、以下の通りです。詳細は一般財団法人地域総合整備財団のホームページに公開されている当ソフトの仕様書に記載されています。

なお、更新費用の試算額は、試算ソフト独自の条件設定を基に算出した更新費用の概算であり、必ずしも実態と一致するものではありません。

### 7-2 概算費用の算出

40年間（平成30年から令和39年まで）の更新費用の総額を35.6億円と算出しました。今後10年間は大規模改修費として約4.9億円程度が必要です。また、令和10年から草加消防署（草加八潮消防局含む）の建替え時期となり、令和21年から青柳分署の建替え及び八潮消防署の大規模改修時期となるため更新費用のピークを迎えます。

図表 68 更新費用の概算



---

## 8 課題整理

以上の本組合における消防力の現状を踏まえ、以下のとおり課題をまとめます。

### ① 消防力の最適化

広域化後の地域住民の安全と安心を守り抜く盤石な消防体制を確立していくためには、現状と将来を見据え、管轄区域全体を俯瞰した消防力の最適化を図っていく必要があります。

施設白書での警防・救急出動区域ごとの面積や人口、火災・救急事案数の発生状況などを見ると、管轄区域ごとに状況は異なっていることが明らかとなりました。また、現在、本組合の管轄区域には新たな宅地が開発され人口が増加する一方で、高齢化率が上昇しており、救急需要等の拡大が見込まれることも明らかとなりました。

このような状況を踏まえ、今後は、管轄区域全体を俯瞰した消防署所の適正配置等の検討が必要です。検討においては、消防車両の走行時間が他の地域と比べ相対的に長いとされている消防力の空白地域が依然として残されていることから、現状だけでなく、将来を見据えた人口動態や都市化の進展等に応じ、消防力の運用効果の向上を図る観点から施設整備等を推進していく必要があります。

また、施設の適正配置に合わせた、消防車両等の必要な資機材とその運用を担う消防職員の確保が急務となります。しかしながら、資機材を揃えるための財源の確保や職員の育成期間等を考慮すると、目標の整備水準まで即座に増強を図ることは困難な状況であることから、段階的に整備を進める必要があります。また、その一方で、財源等には限りがあるため、効率的で効果的な車両と人員の再配置を進めていく必要があります。

### ② 施設更新の必要性

消防施設は、災害活動拠点としての機能を有しており、災害時において継続的に機能を果たすことが何より重要です。このため、災害活動拠点となる施設に必要な耐震性能の基準 Is 値である 0.9 を満たす施設及び台風や集中豪雨による河川の越水や内水氾濫等の風水害に耐えられる強固な施設が求められます。耐震基準に満たない施設については、耐震補強や建替えなどの対応方針等の検討を行うとともに、水防対策についての検討も早急に行う必要があります。

また、執務上の課題として、狭隘な執務空間による業務の非効率な状態が顕在化しています。特に、草加八潮消防局は、建物の狭隘化により、一部消防局機能を八潮消防署に配置している状況にあり、業務連携上、大きな課題となっています。併せて、建物としての老朽化も進んでいることから、消防局機能の集約化の取組とともに、施設の老朽化対策に向けた検討を行う必要があります。

また、非常備消防施設については、管轄区域内に分散して配置される地域の身近な消防拠点となっていますが、老朽化している施設が数多く存在していることが明らかとなりました。竣工年もそれぞれ異なることから、老朽化等の状況に合わせて、計画的に修繕や整備に取り組む必要があります。

### ③ 健全な財政運営

本組合の管轄区域においても、将来的には、少子高齢社会と人口減少の進展が明らかとなりました。そして、その影響により構成市の税収の増加が期待できず、構成市からの負担金を主な財源とする本組合の今後の消防力を維持していくための環境は一層厳しさを増すことが見込まれています。

消防力の維持向上に向けては、計画的な財源確保が必要となりますが、限られた財源を効率的で効果的に活用していくため、今後、大きな費用負担を伴う施設整備に当たっては、計画的な予防保全の考え方を取り入れ、修繕費の平準化や施設の長寿命化等に取り組む必要があります。

### ④ 継続的な人材の確保と育成

施設白書での警防・救急出動の状況を見ると、今後も消防需要は一層高まることが予測されます。このため、消防・救急・救助等の豊富な経験と知識を有した常備消防職員を確保していくとともに、継続的な能力の向上を図っていくことが何より重要となってきます。また、現状においては職員の年齢構成に偏りがあることから、消防力の維持に必要な職員を確保していくため、今後も継続して採用を行うとともに、将来的な消防需要の高まりを受け、職員定数の増加を含めた人員の増強を図っていく必要があります。

消防団員である非常備消防職員については、地域の日常的な防災活動に加え、今後発生が危惧される大規模災害時における住民の避難誘導や地域住民への火災予防啓発活動など、多様化・増加する役割に対応するため、若い世代や女性の消防団員を含めた消防団員の確保を継続的かつ重点的に取り組む必要があります。